

授業科目名 (サブタイトル(副題))	音楽(歌唱)C		
担当者	貞清 直美、安川 裕子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>① 歌を学ぶことによって、楽曲の本質を見抜いた表現ができるようになる。 ② 歌唱の自己表現を確かなものとし、レパートリーを増やし、いつでも演奏できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>歌う活動の技能習得を目指します。 曲の内容を十分に把握し、音楽性豊かに表現する力が習得できるよう進めていきます。 歌詞の言葉を大切に、そのリズムの持つ面白さ、楽しさ、響きの美しさなどを、子どもと共に共感できる歌い方を心がけ、音楽(歌唱)A・Bの学習をふまえてさらにスキルアップを目指します。</p> <p>自信を持って歌える曲を増やします。 歌詞の特徴を捉えて表現できるようにします。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>平素から、教育実習、保育実習で役立てられるように、準備をしてください。 自己アピールできる曲のレパートリーを持ち、採用試験にも向けた備えを心がけてください。 各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業についてのオリエンテーション、発声について(貞清) 2.四季のうた(春・生きもののうた)、手遊び(動物のうた)(貞清) 3.四季のうた(春・自然のうた)、手あそび(春・自然のうた)(貞清) 4.四季のうた(春・行事のうた)、手あそび(ジャンケン遊びのうた)(貞清) 5.四季のうた(夏・食べもののうた)、手あそび(夏・自然のうた)(貞清) 6.四季のうた(夏・自然のうた)、手あそび(わらべうた)(貞清) 7.四季のうた(夏・行事のうた)、手あそび(乳児のための手あそびうた)(安川) 8.四季のうた(秋・生きもののうた)、手あそび(秋・自然のうた)(安川) 9.四季のうた(秋・自然のうた)、手あそび(秋・生きもののうた)(安川) 10.四季のうた(秋・行事のうた)、手あそび(秋・行事のうた)(安川) 11.四季のうた(冬・生活のうた)、手遊び(冬・生きもののうた)(安川) 12.四季のうた(冬・行事のうた)、手遊び(冬・自然のうた)(安川) 13.現場でいつでも歌える曲の確認(貞清・安川) <p>[成績評価方法]</p> <p>実技テスト(80%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>実技試験の後、講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>sadakiyo11168@docomo.ne.jp yasukawa.yuko.yuko@gmail.com</p>			

授業科目名 (副題)	音楽(歌唱)C
担当者	貞清 直美、安川 裕子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法:実技テスト、授業中の取組み、技術力など</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法:実技テスト、授業中の取組み、技術力など</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『指あそび手あそび100』 著者名:阿部 直美編 出版社:チャイルド本社 (978-4-8054-8109-7) 小林 美実編 著者名:チャイルド本社 出版社:978-4-8054-0002-9 C2037</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	音楽(器楽)C		
担当者	小松原 祥子、角南 優子、瓜谷 未佳子、高橋 智子、東 恵子、城市 純子、村林 尚美、大西 有紀		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>① 保育現場での音楽活動のためにピアノの応用演奏ができるようになる。 ② 自分の思いを音で表現できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>音楽(器楽)A1・A2・Bの学修を踏まえた上で音楽(器楽)Cの授業を行います。毎回のレッスンでは、個人の能力に応じたきめ細かい指導を行います。各個人の課題に応じて、実習を見据えた楽曲にも取り組みます。毎回のレッスンには教材の十分な準備練習をするようにしてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業における個人レッスンの時間が十分に活用できるように、日々の練習を十分に行ってください。各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <p>毎回個人指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業方針の説明 「みんなのうた」「季節」「いろいろなうた」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 2. 「みんなのうた」「季節」「いろいろなうた」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 3. 「みんなのうた」「季節」「いろいろなうた」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 4. 「みんなのうた」「園生活」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 5. 「みんなのうた」「園生活」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 6. 「みんなのうた」「園生活」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 7. 「いろいろなうた」「行事」「みんなのうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 8. 「いろいろなうた」「行事」「みんなのうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 9. 「いろいろなうた」「行事」「みんなのうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 10. 現場でよく歌われるこどもの歌の弾き歌いとバイエル他各自の震度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 11. 1～10回で習得した楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 課題発表の準備としてグループレッスンも行う 12. 第1回～第11回で修得した課題の発表 13. 課題の振り返りとさらなる表現の習得 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業中の態度、進捗、技術力(30%)と実技テスト(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レッスンの中で講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>skomatsubara@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	音楽(器楽)C
担当者	小松原 祥子、角南 優子、瓜谷 未佳子、高橋 智子、東 恵子、城市 純子、村林 尚美、大西 有紀
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業中の態度、進度、技術力</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 実技テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『続 こどものうた 200』 著者名: 小林美実編 出版社: チャイルド本社 (4-8054-0002-1) 小林美実編 著者名: チャイルド本社 出版社: 4-8054-8100-5 (その他、適宜ピアノ教本(個別に指示))</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	音楽(器楽)C		
担当者	小松原 祥子、角南 優子、瓜谷 未佳子、高橋 智子、東 恵子、城市 純子、村林 尚美、大西 有紀		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>① 保育現場での音楽活動のためにピアノの応用演奏ができるようになる。 ② 自分の思いを音で表現できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>音楽(器楽)A1・A2・Bの学修を踏まえた上で音楽(器楽)Cの授業を行います。毎回のレッスンでは、個人の能力に応じたきめ細かい指導を行います。各個人の課題に応じて、実習を見据えた楽曲にも取り組みます。 毎回のレッスンには教材の十分な準備練習をするようにしてください。 なお、他学科の学生は人数制限(16人まで)を行います。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業における個人レッスンの時間が十分に活用できるように、日々の練習を十分に行ってください。 各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <p>毎回個人指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業方針の説明 「みんなのうた」「季節」「いろいろなうた」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 2. 「みんなのうた」「季節」「いろいろなうた」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 3. 「みんなのうた」「季節」「いろいろなうた」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 4. 「みんなのうた」「園生活」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 5. 「みんなのうた」「園生活」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 6. 「みんなのうた」「園生活」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 7. 「いろいろなうた」「行事」「みんなのうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 8. 「いろいろなうた」「行事」「みんなのうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 9. 「いろいろなうた」「行事」「みんなのうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 10. 現場でよく歌われるこどもの歌の弾き歌いとバイエル他各自の震度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 11. 1～10回で習得した楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 課題発表の準備としてグループレッスンも行う 12. 第1回～第11回で修得した課題の発表 13. 課題の振り返りとさらなる表現の習得 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業中の態度、進度、技術力(30%)と実技テスト(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レッスンの中で講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>skomatsubara@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	音楽(器楽)C
担当者	小松原 祥子、角南 優子、瓜谷 未佳子、高橋 智子、東 恵子、城市 純子、村林 尚美、大西 有紀
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業中の態度、進度、技術力</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 実技テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『続 こどものうた 200』 著者名: 小林美実編 出版社: チャイルド本社 (4-8054-0002-1) 小林美実編 著者名: チャイルド本社 出版社: 4-8054-8100-5 (その他、適宜ピアノ教本(個別に指示))</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	音楽A		
担当者	小松原 祥子、角南 優子、瓜谷 未佳子、貞清 直美、高橋 智子、宮永 輝子、東 恵子、城市 純子、村林 尚美、大西 有紀		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①ピアノ演奏の基礎力を身に付け、弾き歌いと保育現場に適した楽曲が演奏できるようになる。 ②無理のない自然な発声法で正しく表情豊かに音楽表現することができる。 ③保育者に必要となる音楽の基礎知識とリズム表現の基礎を習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①保育者に必要なピアノ・歌唱表現の基礎力を習得し、読譜と表現のための音楽理論の基本を学びます。 ②ピアノ演奏・子どもの歌の弾き歌い・歌唱・音楽理論・リズムを通して音楽を総合的に理解し、表情豊かに表現する力を身に付けます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業におけるピアノ・弾き歌い個人レッスンや歌唱指導の時間が十分に活用できるように、授業で学んだことを復習、反復練習し、日々の練習を十分に行ってください。 「リズム」の授業では授業内容をまとめ自分なりのテキストとなるノートを作っておいてください。又、実習に関しては、繰り返し練習する等、実践に即した学習を積極的に行ってください。 各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回から第4回はピアノとリズム、第5回から第13回はピアノと歌唱という形で授業を前半後半に分けてグループを入れ替えて行います。</p> <p><ピアノ> 毎回個人指導(小松原、角南、瓜谷、高橋、東、城市、村林、大西)</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 授業方針の説明 グループ分け 課題選曲 「季節」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 「季節」「行事」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 「園生活」「いろいろなうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 「園生活」「いろいろなうた」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす これまで学んだ楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 課題発表の準備としてグループレッスンも行う 第2回～第6回で修得した課題の発表 「行事」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 「行事」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 「いろいろなうた」「園生活」「季節」に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 これまで学んだ楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 課題発表の準備としてグループレッスンも行う 第2回～第11回で修得した課題の発表 課題の振り返りを行い、さらなる表現の向上をめざす <p><リズム>(宮永)</p> <ol style="list-style-type: none"> 譜表と音名 単純音符と休符 数と拍の把握(付点・複付点) 拍子(強記・弱起) リズムカード作り 連符・シンコペーション 鍵盤と長音階 和音の基本形および展開形 カデンツ(I-V7-I) <p><歌唱>(貞清)</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業についてのガイダンス、こどもの歌(園生活のうた) 指あそび(園生活のうた) 発声、ソルフェージュ、こどもの歌(あいさつの歌) 指あそび(食べ物うた) 発声、ソルフェージュ、こどもの歌(季節・春・自然のうた) 指あそび(春の自然の歌) 発声、ソルフェージュ、こどもの歌(季節・春・生きものうた) 指あそび(動物のうた) 発声、ソルフェージュ、こどもの歌(季節・春・行事、園生活のうた) 指あそび(わらべうた①) 発声、ソルフェージュ、こどもの歌(季節・夏・自然のうた) 指あそび(わらべうた②) 発声、ソルフェージュ、こどもの歌(季節・夏・生きものうた) 指あそび(指の名前のうた) 発声、ソルフェージュ、こどもの歌(季節・夏・行事、園生活のうた) 指あそび(ジャンケン遊びのうた) 自己表現が身に付いたかの確認 <p>[成績評価方法]</p> <p>ピアノ実技における授業態度、進捗、技術力(15%)、ピアノ実技テスト(35%)、リズム授業での小テスト(15%)、授業態度(5%)、歌唱授業での実技テスト(20%)、授業態度(10%)で評価します。</p>			

授業科目名 (副題)	音楽A
担当者	小松原 祥子、角南 優子、瓜谷 未佳子、貞清 直美、高橋 智子、宮永 輝子、東 恵子、城市 純子、村林 尚美、大西 有紀
<p>【この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)】</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法:授業態度、進度、技術力、小テスト</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法:実技テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『こどものうた 200』 著者名:小林美実 編 出版社:チャイルド本社 (978-4-8054-8100-4) 阿部直美 編 著者名:チャイルド本社 出版社:978-4-8054-8109-7 (その他、適宜ピアノ教本)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>深見友紀子・小林田鶴子 著者名:音楽之友社 出版社:978-4-276-10052-7</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	音楽B		
担当者	小松原 祥子、角南 優子、瓜谷 未佳子、高橋 智子、宮永 輝子、東 恵子、城市 純子、村林 尚美、大西 有紀、安川 裕子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①ピアノ演奏の基礎と応用力を身に付け、弾き歌いと保育現場に適した楽曲が演奏できるようになる。 ②コルムチューンゲンでリズムや音程の基礎を身に付け、ソルフェージュによって基礎的な調を理解し、発展的な歌唱表現を身に付ける。 ③現場でピアノやリズム楽器を用いて表現するための音楽理論を理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①音楽Aを発展させたピアノ演奏と弾き歌い、歌唱の表現力を身に付ける。 ②保育現場でこどもの歌の伴奏や歌唱支援、指あそびやリズム楽器を用いた表現ができるようになるための、ソルフェージュや音楽理論の基礎を学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>ピアノ・弾き歌い個人レッスンや歌唱の授業時間が活用できるよう、日々の練習を十分に行ってください。 リズムの授業で学んだことを実技に活かせるよう、理解、習得、応用の反復学習を行ってください。 各階の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <p>【ピアノ】毎回個人指導(小松原、角南、瓜谷、高橋、東、城市、村林、大西) 「うたあそび」「季節」「園生活」「行事」「いろいろなうた」 「あそびうた」「レクリエーション・ソング」「みんなのうた」「外国のうた」 に関するこどものうた、ピアノ曲から各自の進度に応じて進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業方針の説明 こどものうた①の弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 2. こどものうた①の弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 3. こどものうた①の弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 4. こどものうた②の弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 5. こどものうた②の弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 6. 1～5に関わるこどものうたの弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 課題発表の準備としてグループレッスンも行う 7. 第1回～第6回で修得した課題の発表 8. こどものうた③の弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 9. こどものうた③の弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで円滑な演奏をめざす 10. 現場でよく歌われるこどもの歌の弾き歌いとバイエル他各自の進度に応じた楽曲ほかで読譜、運指を中心に学習 11. 8～10回で習得した楽曲ほかで表情豊かな演奏をめざす 課題発表の準備としてグループレッスンも行う 12. 第11回までで修得した課題の発表 13. 課題の確認とさらなる表現力の向上をめざす <p>【リズム】(宮永) 1.音程1(度数と音程の種類) 2.コードネームの理解 3.音程2(派生音を含む音程) 4.調判定(短音階の首位・4分の3拍子と8分の6拍子)</p> <p>【歌唱】(安川) 5.授業についてのガイダンス 「続こどものうた200」より 以下同テキスト 季節のうた(秋のうた/冬のうた)、指あそび(わらべうた) 6.季節のうた(春のうた/夏のうた)、指あそび(わらべうた) 7.あそびうた(わらべうた)、指あそび(ジャンケンあそび) 8.あそびうた(グループあそび)、指あそび(となえうたあそび) 9.みんなのうた(お菓子のうた/食べ物のうた)、指あそび(乗り物うたあそび) 10.みんなのうた(動物のうた)、指あそび(動物うたあそび) 11.みんなのうた(夢を育むうた)、指あそび(うたあそび) 12.レクリエーション・ソング、指あそび(うたあそび) 13.こどもの歌をどのように表現できるか確認</p> <p>[成績評価方法] ピアノ実技における授業態度、進捗、技術力(15%)、ピアノ実技テスト(35%)、リズム授業での小テスト(15%)、実技テスト・授業態度(5%)、歌唱授業での実技テスト(20%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 実技テスト終了後講評を行います。 リズムテスト返却後に解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	音楽B
担当者	小松原 祥子、角南 優子、瓜谷 未佳子、高橋 智子、宮永 輝子、東 恵子、城市 純子、村林 尚美、大西 有紀、安川 裕子
<p>【この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)】</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法:授業態度、進度、技術力、小テスト</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法:実技テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『続こどものうた 200』 著者名:小林美実 編 出版社:チャイルド本社 (978-4-8054-0002-9) 信時潔 訳 著者名:大阪開成館 発行 出版社:978-4-9438-3601-8 (『指あそび手あそび100』) チャイルド本社 著者名:978-4-8054-8109-7 出版社:『こどものうた200』(小林美実 編) 978-4-8054-8100-4 著者名:その他、適宜ピアノ教本</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>深見友紀子・小林田鶴子 著者名:音楽之友社 出版社:978-4-276-10052-7</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	学科特別演習 I		
担当者	川村 高弘		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①保育にとっての遊びや表現活動とは何かを理解することができる。 ②保育者として遊びや表現活動における実践力を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>幼稚園現場での実務経験を活かして、保育実践の指導を行います。 授業に関する遊びや表現について、具体的な活動や受講生同士の討議を通し、幼児を理解するとはどういうことなのか、幼児の遊びにはどのような意味があるのかなどについて考察し、保育者として必要な知識や技術を学び実践力を身に付けます。 授業には課題意識をもって積極的に参加してください。また、保育現場で実践することを念頭において毎回の授業内容をスケッチブックにまとめるよう心がけてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業に参加する前に必ず事前に配布した資料を読み、初めて出会う用語の意味を調べておいてください。また、授業後は講義内容・活動内容についてはスケッチブックにまとめを行い、ポートフォリオを作成するとともに自己課題について探求しておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の遊びや表現について 2. 幼児理解①個と集団の遊び 3. 幼児理解②造形表現遊び 4. 幼児理解③運動遊び 5. 幼児理解と保育者の役割①個の援助 6. 幼児理解と保育者の役割②集団の援助 7. 幼児理解と保育者の役割③個と集団の援助 8. 幼児の主体性を育てる援助方法①人的環境・物的環境 9. 幼児の主体性を育てる援助方法②季節・行事 10. 創作活動①人形劇(台本制作) 11. 創作活動②人形劇(人形と背景制作) 12. 創作活動③人形劇発表準備 13. 創作活動④人形劇発表と今後の課題 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(40%)、レポート・ポートフォリオ・課題等の提出物(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートや課題、ポートフォリオ等は、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メールの件名に授業名・学科名・氏名を記載し、メール本文に質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	学科特別演習 I
担当者	川村 高弘
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート・ポートフォリオ・課題等の提出物で評価します。</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート・ポートフォリオ・課題等の提出物で評価します。</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 授業態度、レポート・ポートフォリオ・課題等の提出物で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリント資料を配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 文部科学省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81422-2 (『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』) フレーベル館 著者名: 978-4-577-81424-6</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	学科特別演習 I		
担当者	小松原 祥子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他	iPad		

[到達目標]

- ① リトミック等保育における音楽遊びを実践し、提案できる。
- ② 音楽を通して保育実践力を身に付けることができる。
- ③ イメージを表現することができる。

[授業概要]

保育者としての実践力育成のため、リトミックを中心とした音楽遊び、イメージを表現するピアノ連弾等のアンサンブルと発表を行います。背景となる子どもと音楽について理解を深めていきます。毎回の授業には課題を十分練習する必要があります。学生の自覚ある積極的受講姿勢を希望します。また、毎週の演習、レッスンの成果を学内外の行事として発表します。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

毎週の課題に基づいた準備練習を行ってください。
各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。

[授業計画]

実践先との予定により、子どもと音楽遊びの日を決定します。

1. オリエンテーション アンサンブル・音楽遊びテーマ企画
2. アンサンブル練習 音楽遊び内容検討
3. アンサンブルレッスン 音楽遊び指導案作成
4. アンサンブルレッスン 音楽遊び練習
5. アンサンブルレッスン 音楽遊び教材作成①
6. アンサンブルレッスン 音楽遊び教材作成②
7. 子どもと音楽遊び実践
8. 子どもと音楽遊び実践振り返り
9. アンサンブルレッスン コンサートポスター作成
10. アンサンブルレッスン コンサートプログラム・招待状作成
11. アンサンブルレッスン 楽曲解説作成
12. アンサンブルレッスン コンサート演出準備・リハーサル
13. アンサンブル発表・振り返り

[成績評価方法]

毎回の演習状況(30%)、発表・園での実践(50%)、レポート・提出物(20%)で評価します。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

演習とレッスン、発表での表現について、毎回その場でコメントします。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

skomatsubara@kwjc.kobe-wu.ac.jp

授業科目名 (副題)	学科特別演習 I
担当者	小松原 祥子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: レポート、提出物</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 発表、毎回の演習状況</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 園での実践</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	学科特別演習 I		
担当者	松岡 恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①支援者に必要なメンタルヘルスの基礎的知識を習得できるようになる。 ②安定した人間関係を築ける支援者になるためにまず自分自身について理解し、メンタルヘルスのマネジメントについて理解を深める。</p> <p>[授業概要]</p> <p>公認心理師・臨床心理士・臨床発達心理士資格を有し、その実務経験のある授業担当者が、その経験を活かして、メンタルヘルスマネジメントについて指導します。 子どもの育ちや保護者の子育ての支援者にとって、自分自身の心の健康を保つことは基本的なことであり大切なことです。授業では、心をケアするために知っておきたい様々な考え方やストレスを感じたときの対処法など、グループ学習することで支援者に必要なメンタルヘルスマネジメントの力を高めます。授業内容から自分でテーマに応じた問いや課題を見つけ主体的に取り組ましましょう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>次の授業で取りあげるテーマについて関連の書籍や資料を調べて予習してください。授業後は、復習として授業で行った自己課題やグループ学習を自分なりに見直し、課題や作品を提出してください。(各回予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 心の健康の基礎をつくる基本のケア 3. 切り絵(制作計画・制作) 4. 切り絵(個人作品制作) 5. 切り絵(ゼミ作品制作) 6. 植物療法、植物の香りの効能 7. ウォーキング及び森林療法のストレス軽減効果 8. ストレス軽減効果の検証 9. ブーケ・リース作り 10. 自分の感情を認識し、受け入れ、理解する(1)認識(2)感情のサイクル 11. 心の容量を増やそう(1)行動 12. 心の容量を増やそう(2)思考 13. メンタルヘルスマネジメントについて復習 <p>[成績評価方法]</p> <p>作品(50%)、授業参加度(グループワークにおける意欲・態度・責任感・課題からの学び・気づき)(50%)によって評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業時のプレゼンテーションについては授業時にフィードバックを行います。振り返りレポートについては、個別にフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>m-matsuoka@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問などがある場合には、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項などを記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	学科特別演習 I
担当者	松岡 恵
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 作品、授業参加度(グループワークにおける意欲・態度・責任感・課題からの学び・気づき)</p> <p>【 幼教3-3】幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: 作品、授業参加度(グループワークにおける意欲・態度・責任感・課題からの学び・気づき)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>心が整う癒やしの切り絵 著者名:高井裕子 出版社:ナツメ社 (978-4-8163-7396-1)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	学科特別演習 I		
担当者	畠山 由佳子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標] 自分が感じたことや考えたことを的確に言葉で表現できるようになる。</p> <p>[授業概要] 毎回、貧困、差別等の社会的なテーマをもった映画を視聴し、テーマについて考え、その考えを表現し、新たな疑問に対する答えを探し、深い考察をもつことを練習します。映画は材料であり、履修する学生が主体的にその材料をもとに「考える」ことを学びます。次世代を育てる子どもの「見本」となる身近な大人のひとりである保育士の「保育実践力」のさらに元となる「人間力」を高めます。 やる気と創造性、知的好奇心を持って授業に臨んでください。 映画を見る回では日程を調整し、2コマ続きになる場合があります。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業内で見た映画で取り上げたテーマに対して、授業時間外でインターネット等を利用してリサーチをし、調べた内容を視聴後のレポート(映画ノート)にまとめてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション このゼミで学ぶこと 2. 映画1.「社会的問題 経済的格差」解説と映画鑑賞 3. 映画1.「社会的問題 経済的格差」テーマに各自調べる⇒グループ討議 4. Show and Tell 自分の大切なものを人に紹介する プレゼンの方法 5. 映画2.「多様性と共生」解説と映画鑑賞 6. 映画2.「多様性と共生」テーマに各自調べる⇒グループ討議 7. 映画3.「回復」解説と映画鑑賞 8. 映画3.「回復」テーマに各自調べる⇒グループ討議 9. 映画4.「様々な家族」解説と映画鑑賞 10. 映画4.「様々な家族」テーマに各自調べる⇒グループ討議 11. 映画5.「差別」解説と映画鑑賞 12. 映画5.「差別」テーマに各自調べる⇒グループ討議 13. まとめとふりかえり</p> <p>[成績評価方法] 授業参加(30%)、提出物(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出された映画ノートについてはコメントをつけて返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] yhatake@kwjc.kobe-wu.ac.jp (パソコンからのメールが受信できるように設定を確認してからメール送付してください) 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入してください</p>			

授業科目名 (副題)	学科特別演習 I
担当者	畠山 由佳子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 授業参加、提出物</p> <p>【 幼教2-3】保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。 成績評価方法: 授業参加、提出物</p> <p>【 幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 授業参加、提出物</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	学科特別演習Ⅱ		
担当者	辻田 美和		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	作品の制作、子どもの造形表現活動支援の実践		
<p>[到達目標] 作品制作などの造形表現活動を通して、表現方法や画材についての研究を深め、子どもの楽しく豊かな造形表現活動を支援するための保育実践力を向上させることができる。</p> <p>[授業概要] 作品制作などの造形表現活動の実践を通して、子どもの楽しく豊かな造形表現活動の支援について探求します。表現方法や画材について研究を深め、作品の展示や鑑賞活動にも取り組み、保育実践力の向上を目指します。作品制作活動や子どもたちの造形表現活動の支援について、学外授業などにも積極的な参加を歓迎します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] さまざまな表現や画材に興味を持ち、制作において積極的に取り組んでください。授業時間内に作品が制作が終わらなかった場合は、次の授業までに仕上げてください。 各回の講義についての予習・復習を行う(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.子どもの造形表現活動とその支援について 2.子どもの造形表現活動の支援・研究 身体を介した造形活動の支援について 3.子どもの造形表現活動の支援・教材研究の実践①画材について 4.子どもの造形表現活動の支援・教材研究の実践②表現方法について 5.子どもの造形表現活動の支援・教材研究の実践③支援活動について 6.子どもの造形表現活動の支援・実践のための準備 7.子どもの造形表現活動の支援・保育園での実践①準備 8.子どもの造形表現活動の支援・保育園での実践②支援活動 9.子どもの造形表現活動の支援・活動の振り返り 10.子どもの造形表現活動の支援・鑑賞活動の研究 11.子どもの造形表現活動の支援・鑑賞活動の実践 12.子どもの造形表現活動と保育実践力 13.作品の展示と発表 振り返り <p>[成績評価方法] 作品制作活動と作品、ワークシートの提出物(50%)、子どもの造形表現活動支援への取り組み、受講態度(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 制作作品は展示にて、子どもの造形表現活動支援は実践後に振り返りを行い、学修成果の可視化に取り組みます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] mtsujita@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	学科特別演習Ⅱ
担当者	辻田 美和
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 作品制作活動と作品、ワークシートの提出物</p> <p>【 幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 子どもの造形表現活動支援への取り組み</p> <p>[テキスト(ISBN)] 使用しません。</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	学科特別演習Ⅱ		
担当者	矢野 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①子どもの心身の健康問題について理解を深め、子どもの健康を支援する力を身に付けることができる。 ②運動遊びを通して保育における具体的な援助の方法を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>子どもの心身の健康問題についてフィールドワークや文献を通して現状を学びます。また運動遊びを実践し、幼児期の運動の発達特性について理解を深めます。 意欲的にテーマに取り組み、自分の考えをまとめて積極的に発言してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃から子どもの心身の健康問題について考え、関連書物や新聞記事、ニュース等に目を向けておいてください。 また発表テーマに関連のある文献の収集を心がけてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 子どもの体力の現状と問題 3. 体力について理解を深める 4. 体力とトレーニング 5. 運動遊びの実践 キッズプログラムの見学・体験 6. 運動遊びの実践計画作成 7. 計画を基に運動遊びの実践 8. 実践した運動遊びの課題と検討 9. 子どもの睡眠の現状と問題 10. 子どものアレルギー、栄養摂取の現状と問題 11. 発表テーマの設定、準備(情報機器及び教材の活用を含む) 12. 中間発表 意見交換、修正 13. 発表 評価と考察 <p>[成績評価方法]</p> <p>テーマに取り組む姿勢・授業態度(50%)、発表(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>発表は、終了後に講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>myano@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	学科特別演習Ⅱ
担当者	矢野 真理
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教2-2】幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。</p> <p>成績評価方法: 発表</p> <p>【 幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。</p> <p>成績評価方法: テーマに取り組む姿勢・授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	学科特別演習Ⅱ		
担当者	桐原 美恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①様々な素材を使って、マリオネット作りに取り組むことができる。 ②子どもと共に様々な活動を楽しんだり、周りの人とコミュニケーションをとったりできる。 ③お話づくりや実践を進める中で、主体的に取り組み、保育者としての実践力を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①幼稚園現場での教員経験のある者が、その経験を活かして、幼児と一緒に楽しめる教材や保育の取り組みなど実践を通して指導します。 ②マリオネット作りを通して、様々な素材に触れたり、素材の特徴を知ったりしながら教材への学びを深めていきます。 ③作成した人形を動かしながら周りの人と一緒にお話を進めていく楽しさを味わうとともに、幼児理解や教師の役割について学んでいきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの絵本を読んだり、ボランティア活動で幼稚園・保育所等へ積極的に出かけたりして保育実践力を高める努力をしてください。 ・日ごろから子どもへの関心をもつなど、身近な出来事に関心をもってください。 ・実践に向けての身近な物に関心をもち、素材研究をしてください。 ・指示されたレポートや課題は確実に仕上げてください。(各回、予習・復習合わせて1時間程度) <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心と体が動く保育について 身近なものに目を留めて① <ul style="list-style-type: none"> ・お話づくりと表現 ・ターシャ・テューダーの世界から学ぶ お話の場面を表現する① <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達と表現 ・いろいろな素材の研究 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり① <ul style="list-style-type: none"> ・目標設定と計画 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり② <ul style="list-style-type: none"> ・マリオネットの動き方研究 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり③ <ul style="list-style-type: none"> ・マリオネットの制作(部分) 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり④ <ul style="list-style-type: none"> ・マリオネットの制作(全体) 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・マリオネットの制作(互いに評価) 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり⑥ <ul style="list-style-type: none"> ・お話づくり 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり⑦ <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味や関心について 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり⑧ <ul style="list-style-type: none"> ・お話のイメージを共有する 子どもの表現へのイメージを広げる教材づくり⑨ <ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して 実践発表、振り返りと課題(レポート作成) <p>[成績評価方法]</p> <p>作品(30%)、実践(40%)、授業態度(10%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは添削して、作品はコメントを添えて返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(桐原)mkirihara @kwjic.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	学科特別演習Ⅱ
担当者	桐原 美恵子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 作品、実践、レポート</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 実践、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリント資料を配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 厚生労働省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81448-2 (『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』) フレーベル館 著者名: 978-4-577-81449-9</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	学科特別演習Ⅱ		
担当者	大西 眞弓		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他	地域の幼稚園児・保育園児のとの交流		
<p>[到達目標]</p> <p>①演じ方の工夫や表現力を高めること、各自の役割遂行に責任を持つこと、協同する喜びを味わうことから保育者として大事な同僚性を高めることができる。</p> <p>②実践を通して幼児理解を深め、子どもへのかかわりや保育の実践力を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①幼稚園現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、子どもが心動かして遊ぶ環境の構成や遊びの工夫など実践を通して指導します。</p> <p>②乳幼児期の子どもの発達や学びのプロセスを学び、自分の今後のキャリアに活かせる保育実践力を身に付けられるよう指導します。</p> <p>③脚本作りから、音楽効果を含む演出等について受講生全員で役割分担しながら、協同作業と個々の表現力を必要とする「人形劇づくり」に取り組み、感じたことや、気付いたこと等、積極的に意見交換しながら、作品を作り上げる充実感が味わえるよう指導します。</p> <p>④学科行事、神女中山手保育園との「きずなDAY」において人形劇を実演し、子どもが楽しむ手作り教材の教育的効果を探るとともに、子どもとの触れ合いを通じて幼児理解を深められるようにします。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手作り教材の作成、実演の練習等を繰り返し行い、子どもたちが楽しめる保育の工夫について修得してください。 ・神女中山手保育園との合同行事「きずなDAY」に積極的に参加して、実際の子どもとの触れ合いを通して幼児理解を深めてください。また、「自己課題」を持ち、活動の振り返りを通して自分なりに評価し、次の活動に活かすように取り組んでください。 ・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 人形劇・パネルシアター等、児童文化財に関する資料収集 <ul style="list-style-type: none"> ・研究主題決定、題材検討、予定表作成 子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)をつくろう① <ul style="list-style-type: none"> ・素材研究、役割分担、台本作成と担当人形の作成について 子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)をつくろう② <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しむ人形劇について 子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)をつくろう③ <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに伝えるための工夫について 子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)をつくろう④ <ul style="list-style-type: none"> ・小道具や大道具の作成 子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)をつくろう⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・台詞と歌の作成、効果音や動かし方について ・子どもが興味や関心を持つための演じ方の工夫(情報機器の活用を含む) 子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)をつくろう⑥ <ul style="list-style-type: none"> ・人形の動きの検討と研究(情報機器の活用を含む) 子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)を実演しよう① <ul style="list-style-type: none"> ・脚本に沿っての実演 人形の動かし方の工夫 子どもが楽しむ手作り教材(人形劇)を実演しよう② <ul style="list-style-type: none"> ・演じるタイミングや仲間とのやり取りの工夫(情報機器の活用を含む) 「きずなDAY」において、学修成果を発表しよう(学外授業) 地域の幼稚園において、学修成果を発表しよう(学外授業) 子どもが楽しむ手作り教材と保育についてまとめる(レポート作成) <ul style="list-style-type: none"> ・実践を収録したビデオの視聴を通して演出について研究討議 <p>[成績評価方法]</p> <p>作品(30%)、実践(40%)、課題レポート(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yohnishi@kwjic.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	学科特別演習Ⅱ
担当者	大西 眞弓
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 作品、実践、課題レポート</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 実践、課題レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリント資料を配付します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 厚生労働省編 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81448-2 (『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』) フレーベル館 著者名: 978-4-577-81449-9</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	教育課程論		
担当者	大西 眞弓		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標] 教育課程についての意義や編成の方法およびカリキュラム・マネジメントを行う意義について理解することができる。</p> <p>[授業概要] ①幼稚園現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、幼稚園教育要領解説書等を中心に「環境を通じた教育」の意義、役割、教育課程の編成、カリキュラムマネジメント等、幼児教育の基本について理解を深めることができるように指導します。 ②幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を学び、幼児教育に必要な専門的内容の理解を図るとともに、幼児期における教育の意義を探求します。 ③幼児教育を理解していくためには欠かせない学修であり、関連する法律にも触れ、教育課程・全体的な計画、指導計画等、保育実践の基本となる計画作成について深く学びます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ①講義内で学んだ内容について、『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『保育所保育指針解説』等の関連するところを熟読して理解を深めてください。 ②前回の講義内容の理解度テストを行うので、復習をしておいてください。 ③指示されたレポートや課題は、確実に仕上げてください。 ④各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)</p> <p>[授業計画] 1.幼児教育の基本と教育課程① ・幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園について ・幼児教育の基本 2.幼児教育の基本と教育課程②・編成の基本的な考え方 3.保育内容の変遷と教育課程 4.幼児期の発達と特性 5.幼児の遊びと学び①・環境を通して行う教育・主体的・対話的で深い学びとは 6.幼児の遊びと学び②・幼児教育の「見方・考え方」について 7.指導計画の作成の基本とその方法①・指導計画の形式と作成手順 8.指導計画の作成の基本とその方法②・指導計画の作成方法 9.指導計画の作成の基本とその方法③・評価・改善の考え方 10.幼児教育におけるカリキュラム・マネジメント・社会に開かれた教育課程 11.時代の変化と保育内容①・多様な子供への対応 家庭・地域社会と子育て支援 12.時代の変化と保育内容②・小学校との連携と接続 13.幼児教育の基本と学びの復習 ・資質・能力の「3つの柱」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」及びPDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメント</p> <p>[成績評価方法] 受講態度(20%)、レポート(30%)、小テスト(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、後日添削して返却します。 理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] yohnishi@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	教育課程論
担当者	大西 眞弓
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: レポート、小テスト</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 受講態度、レポート</p> <p>【幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 受講態度、小テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>保育実践につなぐ「カリキュラム論」教育・保育の計画と評価 著者名: 安部 孝 編著 出版社: みらい (978-4-86015-566-7)</p> <p>文部科学省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81447-5 (『保育所保育指針解説』)</p> <p>フレーベル館 著者名: 978-4-577-81448-2 出版社: 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p> <p>978-4-577-81449-9</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	教育課程論演習		
担当者	桐原 美恵子、大西 眞弓		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①教育課程、指導計画についての理論と実際を学び、カリキュラム・マネジメントについての理解を深めることができる。 ② 演習を通して、幼児の発達の特徴や遊びを中心とした指導について理解できるようになる。 ③幼児の主体性と保育者の意図を捉えた保育指導案を立案することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①幼稚園現場における教員経験のある者が、その経験を活かして、教育課程や指導計画の必要性について指導し、指導案を作成できるようにします。 ② 教育課程と指導計画の相互性や、家庭や地域社会との連携を踏まえた幼児教育の特性を理解できるようにします。 ③具体的な幼児の遊びを実践したり、指導案に書いたりしながら、感じたことや、気付いたことなどを自分の言葉で伝えたり、友達と語り合ったりします。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『幼稚園教育要領解説』をよく読み、幼児期の特性や発達などを理解してください。 ・前回の講義内容に関する理解度確認テストを行うので復習しておいてください。 ・講義内で指導案の立案をするので、『教育実習の手引き』を参考にいろいろな指導案の形式について理解してください。 ・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.教育課程の理解① ・幼児教育の基本的な視点と評価 (大西) 2.教育課程の理解② ・教育課程と指導計画について (大西) 3.教育課程の理解③ ・カリキュラムマネジメントの理解とPDCAサイクル(大西) 4.教育課程の理解④ ・適切な幼児理解と評価 (大西) 5.短期指導計画の作成① ・子どもの姿・ねらい、内容(大西) 6.短期指導計画の作成② ・幼児の活動と環境の構成 (大西) 7.演習 日案の作成 (指導案作成に向けて)(桐原) 8.演習 日案の作成 (造形遊びの実践)(桐原) 9.演習 日案の作成 (造形遊びの指導案)(桐原) 10. 演習 日案の作成 (部分実習の指導案作成)(桐原) 11. 演習 日案の作成(ゲーム遊びの実践と指導案の作成)(桐原) 12. 小学校教育との連携と接続 ・指導要録の役割と記入の仕方 (桐原) 13.PDCAサイクルの展開 ・教育課程の編成、実施、評価、改善への取組についてのテスト・解説 (桐原、大西) <p>[成績評価方法]</p> <p>小テスト・指導案(60%)、レポート(30%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートや作成した指導案は後日添削して返却します。 ・理解度確認テスト後は解答の解説を行います。 <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(桐原) mkirihara@kwjc.kobe-wu.ac.jp (大西) yohnishi@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	教育課程論演習
担当者	桐原 美恵子、大西 眞弓
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法:小テスト、指導案、レポート</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法:レポート、指導案、授業態度</p> <p>【幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法:レポート、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『幼児理解に基づいた評価』 著者名:文部科学省 出版社:チャイルド本社 (978-4-8054-0283-2)</p> <p>)</p> <p>文部科学省 著者名:フレーベル館 出版社:978-4-577-81447-5</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>神戸女子短期大学</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	教育原理(教育史及び社会的,制度的又は経営的事項を含む)		
担当者	竹下 正明		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①「教育」の営みを原理的に理解する。 ②「教育」についての研究や実践を進めていく上で必要な教育諸分野についての基礎知識を習得する。 ③「教育」を歴史的な視点から捉えることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>学校現場における教員経験のある者が、その経験を活かして、実践的な視点を交えながら教育の原理について指導します。教科書の記述を参考にしながら、教育にかかわる制度や学校教育の実状、教育史などを中心に解説を進めます。その際、毎回ワークシートを活用しながら解説を進めます。併せて、授業内容に関係の深い時事問題を取り上げ、ミニ討論などを交えながら、教育の原理についての学びが深まるよう進めます。また、授業で解説することができなかった教科書の内容についてレポートや小論文を課し、教育について自ら調べ考える態度を身に付けると同時に、教育についての幅広い知識や考え方が身に付くよう進めていきます。自分自身の今後を支える本との出会いを求めると同時に、心に残る「教育」場面との出会いを期して自主的に「体験(新聞記事等の情報を含めて)」を求めていくように努めてください。 この科目は保育実習Ⅰ(保育所)、保育実習Ⅰ(施設)の単位取得のために習得すべき必修科目です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各講義に関する資料の収集や、教職を志す者として教育に関わる時事問題について自分の考えをまとめるなど、独自のノート(履修記録)づくりを心がけてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 人はなぜ教育を必要とするか (1)子離れ、子別れとしての教育 (2)「子育て」としての教育 子どもの権利という発想と教育 (1)近代人権思想と子どもの権利 (2)子どもの権利条約の歴史的意義 育ち・学びと教育 (1)成長・成熟と「発達」 (2)感情と認知の発達 (3)しつけと過保護・過干渉 (4)虐待 生涯学習・社会教育 (1)生涯学習 (2)リカレント教育 (3)社会教育のゆくえ 学校の歴史① 日本の学校 学校の歴史② 欧米の学校・アジアの学校 学校制度と関係法令 (1)戦後の学校制度の民主化と関係法令 (2)教育基本法の改正 (3)新教育基本法の構成と内容 教育政策、文部科学省と中央教育審議会 (1)教育政策とは (2)戦後の教育政策の展開 (3)文部省から文部科学省へ (4)中央教育審議会の機構と機能 学校のしくみと機能 (1)教育委員会の制度 (2)学校組織と任用身分 (3)チーム学校運営 学校をめぐる連携と協働 (1)学校評価について (2)教育における連携と協働 (3)連携・協働のなかの子ども (4)連携と協働における「つなぎ」の機能と課題 学校制度と関係法令 (1)学校の統廃合 (2)中高一貫校 (3)学校の多様化 学校の安全とリスクマネジメント (1)大阪教育大学附属池田小学校事件と安全 (2)学校保健安全法の制定 (3)学校における危機管理(リスクマネジメント)の考え方 教師として成長するには (1)TEACHER—教える人としての成長 (2)CARER—支える人としての成長 (3)HUMAN BEING—人間としての成長 <p>[成績評価方法]</p> <p>レポート(50%)、小テスト(30%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは、後日添削して返却します。 小テストは、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>m-takeshita@suma.kobe-wu.ac.jp</p> <p>質問等がある場合には、メール本文に 「学科名」「学籍番号」「氏名」「授業名」 を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	教育原理(教育史及び社会的,制度的又は経営的事項を含む)
担当者	竹下 正明
<p>〔この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)〕</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法:レポート(50%)、小テスト(30%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法:レポート(50%)、小テスト(30%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>【幼教3-3】幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法:レポート(50%)、小テスト(30%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>〔テキスト(ISBN)〕 『よくわかる教育原理』 著者名:汐見稔幸他編 出版社: ミネルヴァ書房 (978-4-623-05926-3)</p> <p>〔参考文献(ISBN)〕 文部科学省 著者名:株式会社 東出書房 出版社:978-4-8278-1580-1 (『幼稚園教育要領(平成29年告示)』) 株式会社 フレーベル館 著者名:978-4-577-81422-2 出版社:『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)』(内閣府/文部科学省/厚生労働省)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	教育実習		
担当者	桐原 美恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			

[到達目標]

- ①各幼稚園での教育実習を通じて、発達に応じた幼児期の生活や遊びについて理解し、実習記録や指導案の作成に活かすことができる。
- ②幼児への言葉かけ、配慮などを実践を通して学び、人的環境としての保育者の役割について理解することができる。
- ③組織の中で周りの人とコミュニケーションをとったり、行動したりできる。

[授業概要]

- ①各幼稚園の管理職の講話をはじめ、学級担任の指導を受けて、実習生に必要な心構えや保育内容などについて習得します。
- ②部分実習や研究保育などに向けて指導案を作成したり、実習記録をとったりしながら、保育への取り組みや幼児理解を深めていきます。
- ③幼児や指導教員とのコミュニケーションを図りながら、積極的に実習に取り組み、保育者としての実践的な指導力の向上を図ります。
- ④直前の事前指導、直後の事後指導を必ず受けて、自己目標、自己課題を明確にして、実践とのつながりをもつようにします。
- ⑤教育実習を履修しようとする学生は、「教職原論」「教育原理(教育史及び社会的、制度的又は経営的事項を含む)」「幼児理解の理論・方法」「教育実習指導」を履修済みであることとします。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

- ・日頃より、実際に幼児教育の場に出かけて、学びを深めるようにしてください。
- ・教育実習を控えて、教材研究と資料収集に努めるようにしてください。
- ・幼児のモデルとなるように、自身の生活態度、生活技術等を見直し、健康管理にも留意してください。

[授業計画]

幼稚園や認定こども園にて3週間の現場実習を行います。

- 1.直前の事前指導(学内)
- 2.実地実習(教育実習受け入れ園にて)
 - 教育実習の内容
 - ①幼稚園の概要、運営に関すること
 - ・教職員数、幼児数、学級数
 - ・教育目標、経営方針、職員組織、園務分掌など
 - ②学級経営に関すること
 - ・幼児数と状況、通園区域、保育室環境、学級経営方針など
 - ③保育に関すること
 - ・教育課程、指導計画(期、月、週、日)、評価法、教材教具の研究など
 - ④家庭・地域社会に関すること
 - ・地域社会の実態、PTA活動、預かり保育、子育ての支援、保・幼・小連携など
 - ⑤教職員の職務に関すること
 - ・服務規程、勤務の実際、諸願、届の手続きなど
 - 教育実習の要領
 - ①管理職の講話、担任教員の講話と指導
 - ②観察実習・参加実習と担任教員の指導
 - ③保育の実践と指導教諭の指導
 - 教材研究、保育指導案作成、実習記録(幼児理解を含む)等
 - ④保育研究会での現職教員の指導
 - ⑤勤務実習(実習期間の通勤中は、教師のつもりで行動する)
 - ⑥大学教員の指導
- 3.直後の事後指導(学内)
 - 実習のまとめ
 - ・幼児の実態に関する体験的理解の整理と確認
 - ・教育実践に対する自覚と自己課題
 - ・礼状作成

[成績評価方法]

実習状況(直前の事前指導、直後の事後指導を含む)(20%)、実習記録(30%)、実習園からの評価資料(50%)で評価します。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

教育実習記録や現場からの評価を参考にフィードバックします。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

(桐原) mkirihara@kwjc.kobe-wu.ac.jp
質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。

授業科目名 (副題)	教育実習
担当者	桐原 美恵子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法:実習状況、実習記録、実習園からの評価</p> <p>【幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法:実習状況、実習記録、実習園からの評価</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法:実習状況、実習園からの評価</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『教育実習の手引き』 著者名:神戸女子短期大学 文部科学省 著者名:フレーベル館 出版社:978-4-577-81447-5 (『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』) フレーベル館 著者名:978-4-577-81449-9</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	教育実習指導		
担当者	桐原 美恵子、松岡 恵、大西 眞弓		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>① 教育実習の意義・目的・実習生としての心構え等を学び、幼稚園実習に向けて期待をもつことができる。 ② 幼児理解や観察の視点と方法、教材研究等を行い、幼児の具体的なイメージや保育実践力を身に付けることができる。 ③ 幼稚園参観や研究保育の映像記録の分析、模擬保育によって、幼児の遊びや生活を理解できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>① 幼稚園現場での教員経験のある者や心理学の専門的な知識をもつ者が、教育実習に必要な学修や心構えなどを指導します。 ② 教育実習の意義・目的・実習生としての心構え等を学び、幼稚園実習を実り多いものにするための学修を積み上げていきます。 ③ 具体的な幼児の姿や観察の視点と方法、教材研究、保育指導案の作成等を学び、必要な保育指導力を習得していきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> 『幼稚園教育要領解説』を読み、幼稚園教育の基本について、自分の考えを語れるようにしてください。 教育実習に向けて手遊びや絵本、造形など様々な教材研究に取んでください。 幼児の発達についての基本的な知識をもてるようにしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育実習の意義・目的・実習生としての心構え、履修カルテの作成について (担当:桐原) 幼児教育の視点と方法 (担当:松岡) 特別支援教育 (担当:松岡) 人権教育 (担当:松岡) 幼稚園実習の実際(実習園・組織体制について、子どもを知る)、実習生としての勤務態度 (担当:桐原) 研究保育の映像記録から学ぶ (担当:桐原) 模擬保育と相互評価①・自己課題について (担当:桐原) 園務運営、幼稚園実習の方法、教員養成と教育実習、実習課題について(担当:大西) 幼稚園生活の実際(幼稚園参観) (担当:大西) グループ協議:幼稚園参観での学び (担当:大西) 模擬保育と相互評価②・幼児の発達と遊び (担当:大西) 指導案の作成と実践について (担当:大西) 履修カルテの自己評価、教育実習記録の書き方 (担当:桐原) <p>[成績評価方法]</p> <p>レポート・提出物(60%)、模擬保育(30%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは添削して返却します。 履修カルテを作成し、2年次への学修につないでいきます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(桐原) mkirihara@kwjc.kobe-wu.ac.jp (大西) yohnishi@kwjc.kobe-wu.ac.jp (松岡) m-matsuoka@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	教育実習指導
担当者	桐原 美恵子、松岡 恵、大西 眞弓
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: レポート、提出物、模擬保育</p> <p>【幼教2-2】幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。 成績評価方法: レポート、授業態度</p> <p>【幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 模擬保育、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 著者名: 文部科学省 出版社: フレーベル館 (978-4-577-81447-5)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	教育情報処理演習		
担当者	平田 真弓		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			

[到達目標]

- ①ワードに写真、図形、表などを取り込みビジュアルな文書作成ができる。
- ②エクセルによる基本的な計算処理、グラフ作成ができる。
- ③エクセルによる基本的なデータベース処理ができる。
- ④パワーポイントを用いたプレゼンテーションデータの作成ができる。

[授業概要]

幼稚園や保育所で必要とされる写真画像・図形・表・グラフ・イラストを取り込んだ文書の作成処理、図形描画機能、表作成操作を学びます。またデータ処理等ができるように、表計算ソフトウェアのエクセルを用いたデータ入力、データ演算、グラフ作成、情報検索の利用などについて学びます。また、プレゼンテーションソフトウェアのパワーポイントを用いたプレゼンテーションデータの作成方法などについても学びます。
この授業で身に付ける知識や技術は、パソコンを安全かつ、効果的に利用するための基礎となります。したがって、ここで身に付けたことは他のいろいろな授業での学習にも役に立ちます。各自でテキストを参考にしながら、特に復習や課題作成に積極的に取り組んでください。すでにパソコンを使っている人にとっても、基礎知識や技術が正しく理解できているかどうかを確認しながら学習を進めてください。基礎だからと言って学習がおろそかにならないよう、目的意識を明確にして粘り強く学習してください。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行うこと(各回、合わせて1時間程度)。

[授業計画]

1. 授業ガイダンス、Wordの概要
2. Wordによる写真画像、図形を取り込んだ文書作成
3. グラフ、イラストを取り込んだ文書作成
4. 表計算ソフトウェアの概要、データ入力、関数と数式の基礎
5. 相対参照と絶対参照
6. グラフの応用
7. データの並べ替え
8. グラフの読み方と利用
9. プレゼンテーションソフトウェアの概要と効果的なプレゼンテーション方法
10. プレゼンテーションの作成
11. 図・グラフ・表の挿入と編集
12. アニメーション・画面切替・トリミング・背景削除
13. 総合課題

[成績評価方法]

演習を含む授業に対して熱心に取り組む、授業中に課した課題を提出し、かつ、レポートを提出することが必要です。成績評価は、授業態度(30%)、課題(50%)、レポート(20%)で評価します。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点を指摘し、改善を求めます。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

mhirata@kwjc.kobe-wu.ac.jp

質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。

授業科目名 (副題)	教育情報処理演習
担当者	平田 真弓
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 課題 レポート</p> <p>【幼教3-3】幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: 課題 レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)] 30時間アカデミックOffice2021 著者名: 杉本くみ子 大澤栄子 出版社: 実教出版 (978-4-407-35943-5)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	教育心理学		
担当者	松岡 恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①教育心理学の基本用語を理解し、正確に覚えることができる。 ②幼児・児童・生徒の発達や行動を教育心理学的な観点から解釈し、適切な支援と指導ができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>人間の発達には、一般化された幾つかのセオリーがあります。児童期にはギャングエイジがあり、青年前期には第二次反抗期があります。また人間には一般セオリーでは説明できない個人差があります。興味・関心は個人差の典型であり、学習速度や学習スタイルは、学習上の個人差です。近年では、発達障害における教科指導や生活指導が教育心理学の大きな課題になっています。学校教育や家庭教育の改善には、指導者や保護者が教育心理学の知見を理解し、教育の在り方を考えることが大切です。本講義では教育心理学の基本用語を習得し、学校教育や家庭教育の実際を学びます。教職免許取得希望者のみ受講できます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>(予習) 次回授業で取りあげるテーマに添ってテキストの指定箇所を読んで疑問点を整理しておいてください。 (復習) テキストや資料を読み直して重要語句を覚え、教育者として必要な知識を深めてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学とは(1)教育心理学とは(2)教育心理学の研究法 2. 子どもの発達と教育(1)発達とは何か(2)発達を規定する要因(3)発達段階と発達課題 3. やる気を高める(1)動機づけ(2)学習意欲(3)無気力 4. 学習のメカニズム(1)学習の基礎としての条件づけ(2)学習と記憶(3)問題解決としての学習 5. 授業の心理学(1)学習指導の理論(2)共同学習の諸形態 6. 教育評価の考え方と方法(1)教育評価の意義と目的(2)教育評価の方法(3)評価資料収集の技法(評価用具) 7. 1～6までの理解度確認テストと、知的能力の発達と教育(1)知的能力の発達(2)知的能力の測定(3)創造性(4)学力と学力不振 8. パーソナリティの発達と理論(1)パーソナリティの形成(2)パーソナリティの測定 9. 社会性の発達と教育(1)向社会的行動(2)親子関係(3)仲間関係 10. 学級の心理学(1)学級集団の機能(2)教師と子どもの関係(3)子ども同士の仲間関係 11. 子どもの不適応とストレス・様々な精神的な不調 12. 生徒指導の重要課題(不登校・いじめ・非行) 13. 7～12までの理解度確認テスト・解説 <p>[成績評価方法]</p> <p>2回の理解度課題テスト(50%×2)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>m-matsuoka@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p> <p>質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	教育心理学
担当者	松岡 恵
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 2回の理解度課題テスト</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 2回の理解度確認テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『たのしく学べる最新教育心理学』 著者名: 桜井茂男(編集) 出版社: 図書文化社 (978-4810076905)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>内閣府 文部科学省 厚生労働省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81449-9 (『保育所保育指針解説』) フレーベル館 著者名: 978-4-577-81448-2</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	教育相談の理論・方法(カウンセリングを含む)		
担当者	松岡 恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①学校・園における教育相談の意義と課題を理解することができる。 ②受容・傾聴・共感的理解などのカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>公認心理師・臨床心理士・臨床発達心理士資格を有し、その実務経験のある授業担当者が、その経験を活かして、教育・臨床現場などで活用できる心理学の知識や技法をロールプレイや体験を通して学ぶことができる授業を展開します。 教育相談では、教育者が対象の子どもや保護者の心に寄り添いながら、相手が主体的に課題に取り組み、その結果成長できるよう、導き支えることが求められます。そのためには教育者自身が普段から安定した精神状態を保ち、周りの人と信頼関係を築けることが重要です。本授業では心理テストやカウンセリング技法を学ぶことを通して自己理解を深めましょう。 テーマごとにワークシートがあります。授業の内容から自分でテーマに応じた問いや課題を見つけて問題解決する力が伸ばせるように努力してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>次の授業で取り上げるテーマに沿ってテキストの指定箇所を読んで予習をしてください。また、授業後は、復習として指定箇所の解説文を読み、学習したことを自分なりにノートにまとめてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談の意義・保育者の専門性と相談活動 2. 適職探しに役立つキャリアの心理学 3. 自己概念 4. 自分の気持ちの伝え方(アサーション) 5. 論理療法 6. 交流分析 7. 描画法 8. 相手が話したくなる聴き方・話し方 9. 思春期から青年期の発達 10. 芸術療法・遊戯療法(コラージュ療法) 11. コラージュ制作 12. プレゼンテーション 13. 女性のメンタルヘルス <p>[成績評価方法]</p> <p>提出物・レポート(40%)、グループワークにおける取り組み(30%)・発表(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートにコメントを付して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>m-matsuoka@kwjic.kobe-wu.ac.jp 質問などがある場合には、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項などを記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	教育相談の理論・方法(カウンセリングを含む)
担当者	松岡 恵
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 提出物・レポート、発表で評価します。</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 提出物・レポート、グループワークにおける取り組みで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『よくわかるアサーション・トレーニング 自分の気持ちの伝え方』 著者名: 平木典子 出版社: 主婦の友社 (978-4-07-285050-3)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>内閣府 文部科学省 厚生労働省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81449-9 (『保育所保育指針解説』) フレーベル館 著者名: 978-4-577-81448-2</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	教育の方法・技術		
担当者	川村 高弘		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①幼児教育の方法・技術の基本を学ぶことができる。 ②幼児理解を深めながら保育者としての姿勢や態度を身に付けることができる。 ③ICT等の情報機器及び教材の活用についても最新の知識を得ることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>幼稚園長の経験を有する教員が、保育の方法及び技術の指導を行います。 乳幼児期にふさわしい保育方法についての知識・理論について理解を深め、実践的な指導技術を身に付けます。 また、具体的な多くの実践事例について検討し、プレゼンテーション、ディスカッション等、発表体験も行いながら保育方法・技術を探究します。さらに、保育現場における情報教育のあり方やICT等の情報機器及び教材の活用に関する最新の知識・技術を修得します。 教科書の予習・復習を行うとともに、授業内容を整理するよう心がけてください。また、授業には積極的に参加してください。さらに、日頃から保育に関する問題についての情報をニュースや新聞等で得るようにしておいてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>シラバスの「授業計画」に沿って授業に参加する前に必ずテキストを読み、初めて出会う用語の意味を調べておいてください。また、授業後は講義内容についての復習を行い、自己課題について探求してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の方法と技術の意義 2. 保育現場における教育方法の理論と歴史 3. 子どもの理解からはじまる保育方法 4. 環境を通して行う保育 5. 遊びを通しての総合的な指導方法 6. 個と集団を生かした保育方法 7. 保育現場における情報教育の実践①教材作成 8. 保育現場における情報教育の実践②教材の活用と評価 9. グループ研究・発表・評価①課題設定・検討・討議 10. グループ研究・発表・評価②発表・評価 11. 保育とメディア・ICT 12. 家庭・地域・小学校との連携 13. 保育現場における教育方法・技術の現代的課題と展望 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(10%)、レポート・課題等の提出物(10%)、小テスト(80%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は提出後、添削して返却します。小テストは、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メールの件名に授業名・学科名・氏名を記載し、メール本文に質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	教育の方法・技術
担当者	川村 高弘
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート・課題等の提出物、小テストで評価します。</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート・課題等の提出物、小テストで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『幼児教育方法論』 著者名: 田中卓也・松村齋・小島千恵子(編) 出版社: 学文社 (978-4-7620-2876-2)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>文部科学省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81447-5 (『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』)</p> <p>フレーベル館 著者名: 978-4-577-81449-9 出版社: 『保育方法・指導法』(大豆生田啓友・渡辺英則・森上史朗(編))</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	教職原論		
担当者	桐原 美恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①求められている教員の役割や職務内容について理解できるようになる。 ②教員としての意欲や熱意、教育観をもつことができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①教職を目指す人のベースになる科目として、幼稚園現場での教員経験のある者が、その経験を活かして、保育実践力が身に付けられるよう指導します。 ②教育における教員の役割や資質、職務内容等について明らかにしながら、自らどのような教員として成長していけばよいか、その力を付けていく方法や努力について修得します。 ③教育の在り方や歴史、教師の専門性など幅広い視点から、教育について学び、自分なりの教育観をもてるようにします。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定された教科書を事前に読んでおくことや、事後には配布プリントやノートの整理をし、教職への理解に努めてください。 新聞を読むなど社会の動きや教育や保育に関する記事に関心をもってください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション、「生きる力」を育む教育について理解 教育とは何か(3つの教育観から) 教職とは何か(教師としての資質能力) 日本における教師の歴史 現代社会の子ども 幼稚園・保育所・認定こども園の生活と遊び ①園の一日と一年と保育者の仕事 幼稚園・保育所・認定こども園の生活と遊び ②保育の中での遊び・実習の心得(DVD視聴) 幼稚園・保育所・認定こども園の遊びと小学校での学習 教師をめぐる現状とこれから・チーム学校としての対応 ・いじめ、保護者対応その他の課題 教師に求められる資質の能力 ①カウンセリングマインド 教師に求められる資質の能力 ②気にかかる子ども 教師をめぐる法律(服務上・身分上の義務)、教職の専門性と研修 「生きる力」の基礎を育成する幼児教育と教師の役割の復習テストと解説 <p>[成績評価方法]</p> <p>小テスト(60%)、レポート(30%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートや作成した課題資料などは後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(桐原) mkirihara@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	教職原論
担当者	桐原 美恵子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 小テスト、レポート</p> <p>【幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: レポート、授業態度</p> <p>[テキスト (ISBN)]</p> <p>『新訂 教職入門』 著者名: 古橋和夫(編) 出版社: 萌文書林 (978-4-89347-298-4) 文部科学省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81447-5 (『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』) フレーベル館 著者名: 978-4-577-81449-9</p> <p>[参考文献 (ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	子育て支援 I		
担当者	畠山 由佳子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標] 卒業後、保育の現場でそのまま使えるような技術・知識を体得できる。</p> <p>[授業概要] 子育て支援及び児童福祉の実践経験のある教員が指導・ファシリテートします。 演習形式でロールプレイ等参加型の授業を通して、対人援助技術を体得していきます。 参加型の授業であるため、参加する意志のない者、態度のない者については出席とみなさないこともあります。 特に他の人の迷惑になるような私語等の行為をしている人は他の学生の授業を受ける権利を侵害しているとみなし、退出していただくようお願いすることがあります。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業前において、子どもや家族をめぐる問題について広く興味を持ち、理解を深めるように努めてください。 授業後には毎回の授業の内容を振り返るための「ふりかえり用紙」をなるべく授業内容がフレッシュな間に記入し、忘れずに次回の授業始めに提出してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション(社会福祉援助技術の意味) 2. 自己覚知①:私のPI 3. 自己覚知②:人生曲線 4. 対人援助の視点①:他の人とのつながりと気持ちへの理解 自分以外の人の立場になって考える(ワーク) 5. 対人援助の視点②:ソーシャルワークの価値 こういちくんの場合ワーク 6. 対人援助の視点③:共感のワーク 7. 対人援助の視点④:一方向と双方向のコミュニケーション 8. 対人援助の視点⑤:エコロジカル視点 さかなワーク 9. 対人援助の視点⑥:ストレングス視点 10. 対人援助の視点⑦:ケースワークの7原則 11. 非言語コミュニケーション 12. 言語的対応 13. 記録の書き方</p> <p>[成績評価方法] 授業参加度 15%、ふりかえりレポート 60%、最終レポート25%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 毎回の授業の「ふりかえり」に対してコメントをつけて返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] yhatake@kwjc.kobe-wu.ac.jp(パソコンからのメールが受信できるように設定を確認してからメール送付して下さい)</p>			

授業科目名 (副題)	子育て支援 I
担当者	畠山 由佳子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>【 幼教2-1 】 幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: ふりかえりレポート、最終レポート</p> <p>【 幼教3-1 】 幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 授業参加度、ふりかえりレポート、最終レポート</p> <p>【 幼教3-2 】 幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 授業参加度、ふりかえりレポート</p> <p>[テキスト (ISBN)] 授業中にプリントを配布します</p> <p>[参考文献 (ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	子育て支援Ⅱ		
担当者	安田 則子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①子育て支援の意義と原則について学び、子育て支援の基本を理解できるようになる。 ②子育て支援の実際を学び、内容や方法を理解すると共に実践力が持てるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>保育現場における保育経験のある者が、その経験を活かして、事例をあげて説明をします。 事例を通して子育て支援を学ぶのと同時に、保育現場でどのような相談支援が行われているのかを理解していきます。 積極的に参加してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習に関してはシラバスの「授業計画」に沿って、事前にテキストを読んでおいてください。また、授業後は、学習したことを自分なりにノートにまとめてください。 演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 子どもの保育とともに行う保護者の支援 3. 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 4. 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気付きと多面的な理解 5. 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供 6. 子ども及び保護者の状況・状態の把握 7. 支援の計画と環境の構成・支援の実践・記録・評価・カンファレンス 8. 職員間の連携・協働・社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 9. 保育所等における支援 10. 障害のある子ども及びその家庭に対する支援 11. 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 12. 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 13. 子育て支援に関する理解度の確認 <p>・順序は変更する場合があります。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(20%)、各時間の課題(20%)、確認テスト(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>試験を回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>連絡は、n-yasuda@kwjc.kobe-wu.ac.jp まで。 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	子育て支援Ⅱ
担当者	安田 則子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 授業態度、各時間の課題、確認テスト</p> <p>【 幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 授業態度、各時間の課題、確認テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>子育て支援—15のストーリーで学ぶワークブック— 著者名:二宮祐子 出版社:(株)萌文書林 (978-4-89347-284-7 C3037)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	子ども家庭支援の心理学		
担当者	安田 則子、松岡 恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期段階の重要性、発達課題等について理解できるようになる。</p> <p>②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得できるようになる。</p> <p>③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解できるようになる。</p> <p>④子どもの精神保健とその課題について理解できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>児童相談所や教育機関での心理相談の経験者、及び保育現場における保育経験者が、その経験を活かして、事例をあげて説明をします。</p> <p>乳幼児期から皆さん自身の年代や子どもの保護者の年代も視野に入れた人生全体の発達の流れについて学びます。そのなかで、保育者に必要な家庭支援に関する知識を学修します。</p> <p>子どもの心の育ちに関心を持ち、意欲的に授業に臨み、わからないことを自分で調べて自ら進んで学びを深めることを期待します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>次の授業で取り上げるテーマに沿ってテキストの指定箇所を読んで予習をしてください。また、授業後は、復習として指定箇所の解説文を読み、学習したことを自分なりにノートにまとめてください。</p> <p>講義2単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(安田・松岡) 2. 子育てを取り巻く社会的状況・ライフコースと仕事・子育て(安田) 3. 多様な家庭とその理解(安田) 4. 特別な配慮を要する家庭(安田) 5. 子どもの生活・生育環境とその影響(安田) 6. 子どもの心の健康に関わる問題(安田) 7. 子ども家庭支援に関する理解度の確認(安田) 8. 乳幼児期から学童期前期にかけての発達(松岡) 9. 学童期後期から青年期にかけての発達(松岡) 10. 成人期・老年期における発達(松岡) 11. 家族・家庭の意義と機能・親子関係・家族関係の理解(松岡) 12. 子育ての経験と親としての育ち(松岡) 13. 子ども家庭支援に関する理解度の確認(松岡) <p>[成績評価方法]</p> <p>レポート(30%)、確認テスト(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(安田)n-yasuda@kwjc.kobe-wu.ac.jp (松岡)m-matsuoka@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください</p>			

授業科目名 (副題)	子ども家庭支援の心理学
担当者	安田 則子、松岡 恵
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: レポート・確認テスト</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: レポート・確認テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>子ども家庭支援の心理学 著者名: 佐久間路子・福丸由佳 出版社: 北大路書房 (978-4-7628-3153-9)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	子ども家庭支援論		
担当者	畠山 由佳子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>① 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解できるようになる。 ② 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できるようになる。 ③ 子育て家庭に対する支援の体制について理解できるようになる。 ④ 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>保育士という立場において、子どもとその子どもの養育環境となる家庭を支援するために必要な知識と技術について学びます。 事例研究等では質疑・意見発表も積極的に行っていくため、参加する態度のない学生、他の学生の迷惑となる学生は出席とはみなしませんので、注意してください。 特に他の人の迷惑になるような私語等の行為をしている人は他の学生の授業を受ける権利を侵害しているとみなし、退出していただくようお願いすることがあります。 保育士資格取得のための必修授業となるため、受講態度およびその成果については将来の保育者としてふさわしいレベルを求めます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>子どもと家庭をめぐる社会福祉の政策(マクロ)から個人に対する援助(ミクロ)まで、最新の状況について、新聞やメディアを通して関心を向けておいてください。必ず、授業後には、授業でカバーした範囲の教科書をもう一度、ノートを見直しながら復習してください。そしてわからなかった部分はリフレクションペーパーなどを通して必ず質問してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 家庭生活のリアリティを把握する視点・家族の変化 3. 家族の機能とジェンダーの視点 4. 地域社会と労働現場の変化・壇上共同参画社会と家庭の平等の具体化 5. 子ども家庭支援のために役立つ法律・制度 6. 子育てサービスの機能とその落とし穴 7. 保育所による子ども家庭支援の実際と支援の方法 8. 子ども虐待・DVの現実と子ども家庭支援 9. 子どもの貧困と家庭支援 10. 「障害のある子」を持つ家族と子ども家庭支援 11. 精神障がいのある保護者と子ども家庭支援 12. 世界の子育て支援から学ぶこと 13. 理解度確認テスト実施と解説 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業参加度(15%)、課題(45%)、理解度確認テスト(40%) で評価します</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yhatake@kwjc.kobe-wu.ac.jp(パソコンからのメールが受信できるように設定を確認してからメール送付して下さい。) 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入して下さい</p>			

授業科目名 (副題)	子ども家庭支援論
担当者	畠山 由佳子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 課題、理解度確認テスト</p> <p>【幼教2-2】幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。 成績評価方法: 授業参加度、課題、理解度確認テスト</p> <p>【幼教2-3】保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。 成績評価方法: 授業参加度、課題</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 授業参加度、課題</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『子ども家庭支援論—家族の多様性とジェンダーの理解』 著者名: 浅井春夫 所貞之 編 出版社: 建帛社 (978-4-7679-5118-8)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	子ども家庭福祉		
担当者	畠山 由佳子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標] 子どもとその家族に対する専門職に必要な価値・技術・知識をもつことができる。</p> <p>[授業概要] 家庭支援・子育て支援においてソーシャルワーク実践経験のある教員が現場の事例を用いながら指導します。 教科書の内容を中心とするが、適宜、資料を配布して、マクロ(政策・制度面)・ミクロ(対人)的な視点での児童(子ども家庭)福祉について保育士が知っておくべきトピックをおさえていきます。 授業態度の悪い者は出席と認めないことがあります。 私語等、他の学生の迷惑になる人は授業中に退出してもらうことがあります。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 子どもと家庭をめぐる社会福祉の政策(マクロ)から個人に対する援助(ミクロ)まで、最新の状況について、新聞やメディアを通して関心を向けておいてください。必ず、授業後には、授業でカバーした範囲の教科書をもう一度、ノートを見直しながら復習してください。そしてわからなかった部分は次の授業で必ず質問してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 授業内容の説明「児童」について 2. 子どもと家庭の権利擁護 3. 親としての義務 4. 子育て家庭支援サービスの考え方 5. 子育て家庭支援サービスの実際 6. 社会的養護と自立支援サービス 7. 児童福祉の法体系と実施主体 8. 子どもへの理解と対応(特別なニーズを持つ子ども) 9. 児童虐待① 予防と支援、介入 10. 児童虐待② 子どもの将来を見据えた支援のあり方 11. 家族に対する支援のあり方:①ポピュレーションアプローチ 12. 家族に対する支援のあり方:②特定のニーズに対するアプローチ 13. 子ども家庭福祉に対する理解度確認テスト・解説</p> <p>[成績評価方法] 授業参加度 30%、リフレクションペーパー 45%、理解度確認テスト 25%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 理解度確認テストを回収後、回答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] yhatake@kwjc.kobe-wu.ac.jp(パソコンからのメールが受信できるように設定を確認してからメール送付して下さい) 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入して下さい</p>			

授業科目名 (副題)	子ども家庭福祉
担当者	畠山 由佳子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法:リフレクションペーパー、理解度確認テスト</p> <p>【幼教2-2】幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。 成績評価方法:リフレクションペーパー、理解度確認テスト</p> <p>【幼教2-3】保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。 成績評価方法:授業参加度、リフレクションペーパー、理解度確認テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>よくわかる子ども家庭福祉 著者名:吉田幸恵/山縣文治 出版社:ミネルヴァ書房 (9.7846230951e+12)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	子どもの遊びと文化		
担当者	辻田 美和		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	作品制作、子どもの遊び支援活動の実践		
<p>[到達目標]</p> <p>①児童文化財について研究し、子どもの遊びと文化について理解を深めることができる。 ②児童文化財の制作と遊びの実践を通して、保育者として子どもたちの遊びを支援することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>子どもの発達に遊びは不可欠であり、子どもの生活になくてはならないものです。子どもの造形表現的な遊びについて実践を通して研究し、遊びの文化について理解を深め、保育実践力の向上を目指します。児童文化財にかかわる活動についての制作に取り組み、研究を深めます。 子どもたちが遊びの活動を楽しむことができるよう、自らも遊びを楽しみ、児童文化財の制作に積極的に取り組んでください。制作した児童文化財を用いて、保育の現場での遊びの発表と実践に取り組みます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>子どもの遊びに関心を持ち、日頃から観察に取り組んでください。児童文化財の制作作品が授業時間内に仕上がらなかった場合は、必ず次の授業までに完成させておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行う各回、予習・復習合わせて1時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの遊び・伝承遊び・児童文化財の研究 2. 児童文化財の制作(1)①描く遊び 研究 3. 児童文化財の制作(1)②描く遊び 構想 4. 児童文化財の制作(1)③構想・制作 5. 児童文化財の制作(1)④制作 完成 6. 子どもの遊びと文化・行事①研究 7. 子どもの遊びと文化・行事②実践 8. 児童文化財の制作(2)①作る遊び 研究 9. 児童文化財の制作(2)②構想・制作 10. 児童文化財の制作(2)③制作 11. 作品制作の振り返り、発表の準備 12. 児童文化財の発表と実践①前半 13. 児童文化財の発表と実践②後半 振り返り <p>[成績評価方法]</p> <p>作品制作活動と作品(80%)と受講態度・制作態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>制作した作品は振り返りを行い、返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>mtsujita@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	子どもの遊びと文化
担当者	辻田 美和
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 作品制作活動と作品</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 作品制作活動と受講態度</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 作品制作活動と受講態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] 使用しません。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 東山明 監修 著者名: 明治図書 出版社: 978-4-18-031816-2</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	子どもの健康と安全		
担当者	西村 玲子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①子どもの健康状態を的確に把握し、保健対応できるようになるための知識と技術を習得することができる。 ②子どもを取り巻く保育環境に関心を持ち、事故防止や安全対策等に必要な知識と技術を習得することができる。 ③子どもの健康や安全を守る対策として、地域連携の重要性を理解することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>母子保健に関わってきた経験のある教員が、その経験を活かして、今日的な健康課題への対応を指導します。 子どもの健康と安全に留意した保育を実践するために、必要な知識や技術について講義します。 具体的には、「子どもの保健」で学んだ知識をもとに、健康面においては体調不良時の対応、感染症対策、個別的な配慮を要する子どもへの対応等について深めていきます。 安全面においては、衛生管理、安全体制、危機管理等について概説します。 また、身体計測、バイタルサインの測定、沐浴、救急蘇生法等の演習も行います。</p> <p>子どもを取り巻く健康問題等についても論説していきますので、日頃から子どもの健康関連のニュースや情報には関心を持つようにしてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義内容について、予習・復習を行ってください。(各回、予習・復習合わせて1時間程度) 次の授業のテキストの指定箇所を読み、質問事項を考えておいてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健的観点を踏まえた保育環境および援助 2. 保育における健康および安全管理1 衛生管理 3. 保育における健康および安全管理2 事故対策・危機管理 4. 演習1:安全管理を考える 5. 健康および安全管理の実施体制 演習2:保健だよりの作成 6. 子どもの体調不良等に対する適切な対応1 体調不良に対する対応 7. 子どもの体調不良等に対する適切な対応2 応急措置等 8. 子どもの体調不良等に対する適切な対応3 救急蘇生法等 9. 演習3:沐浴・救急蘇生法等 10. 感染症対策 罹患しやすい感染症とその対策 11. 子どもの心身の健康状態とその把握1 アレルギー疾患児への対応等 12. 子どもの心身の健康状態とその把握2 個別的配慮を要する子への対応等 13. 子どもの心身の健康状態とその把握3 発達障害児への対応等 <p>授業に関する理解度確認テスト</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(50%) 提出物(30%) 小テスト(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業内またはmanabaにて解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>r-nishimura@kwjic.kobe-wu.ac.jp</p> <p>質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	子どもの健康と安全
担当者	西村 玲子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(50%) 提出物(30%) 小テスト(20%)</p> <p>【幼教3-3】幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(50%) 提出物(30%) ・ 小テスト(20%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『子どもの健康と安全』 著者名:加藤則子・菅井敏行 編著 出版社:北大路書房 (978-4-7628-3149-2)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	子どもの保健		
担当者	西村 玲子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①子どもの保育にたずさわるために必要な基礎的事項(身体発育や発達、子どもの健康状態の把握、疾病に対する理解と対応等)を理解することができる。</p> <p>②子どもの健康の保持・増進を図るために、具体的に何をすればいいのかを考えることができる。</p> <p>③これらの知識を保育実習で実践できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>母子保健に関わってきた経験のある教員が、その経験を活かして、今日的な健康課題への対応を指導します。保育にたずさわる者として、小児期は人格や健康の基盤を形成する重要な時期であると認識しておく必要がある。本授業では、まず乳幼児期における身体発育や生理機能の特性、発達過程、子どもの健康状態の把握と対応、疾病とその予防や対応など、保育における保健的対応に必要な基礎的事項を概説します。そのうえで、さらに積極的に子どもの健康の保持増進を図るにはどうしたらよいか、また現代社会における子どもを取り巻く健康問題等についても論説していきますので、日頃から子どもの保健関連のニュースや情報に関心を持つようになしてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義内容について予習・復習を行ってください。(各回、予習・復習合わせて4時間程度) 次の授業のテキストの指定箇所を読み、質問事項を考えておいてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康と保健の意義、わが国の母性保健 2. わが国の小児保健 3. 虐待について 4. 身体発育と保健1 発育 5. 身体発育と保健2 発育の評価 6. 運動機能の発達と保健 7. 生理機能の発達と保健 8. 精神機能の発達と保健 9. 心身の健康状態とその把握 10. 子どもの疾病の予防及び適切な対応1 感染症等 11. 子どもの疾病の予防及び適切な対応2 アレルギー等 12. 子どもの疾病の予防及び適切な対応3 予防接種等 13. 授業のまとめと振り返り、授業に関する理解度確認テスト <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(70%)・小テスト(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業内 または manaba にて解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>r-nishimura@kwjic.kobe-wu.ac.jp</p> <p>質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	子どもの保健
担当者	西村 玲子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト(70%)・小テスト(30%)</p> <p>【幼教3-3】幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト(70%)・小テスト(30%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『新版 よくわかる子どもの保健』 著者名: 丸尾良浩／竹内義博 編著 出版社: ミネルヴァ書房 (978-4-623-09024-2)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	子どもの理解と援助		
担当者	松岡 恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解できるようになる。</p> <p>②子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できるようになる。</p> <p>③子どもを理解するための具体的な方法を理解できるようになる。</p> <p>④子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>発達・就学相談及びコンサルテーションの実践経験のある教員が事例を挙げながら指導します。子どもの発達や子どもの生活や遊びのありようを通して子ども理解の視点を習得し、子どもを理解する方法や、子ども理解に基づく発達援助を学びます。</p> <p>子どもの心の育ちに関心を持ち、意欲的に授業に臨むことを期待します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>次の授業で取り上げるテーマに沿ってテキストの指定箇所を読んで予習をしてください。また、授業後は、復習として指定箇所の解説文を読み、学習したことを自分なりにノートにまとめてください(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.子ども理解と援助の基本 2.0歳から1歳児の理解と援助 3.2歳から3歳児の理解と援助 4.4歳から6歳児の理解と援助 5.保育の観察と記録 6.発達障害児とその家族支援 7.保育における協同と連携の意義 8.環境の変化や移行 9.職員間の対話 10.発達の連続性と就学への支援 11.発達の課題に応じた援助と関わり 12.特別な配慮を要する子どもの理解と援助 13.子どもの理解に基づく発達援助について理解度確認テスト・解説 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業内の課題・レポート(40%)、確認テスト(50%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートについては個々に又は授業内で全体へのフィードバックを行います。学びの確認テストでは直後に解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>m-matsuoka@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p> <p>質問などがある場合には、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項などを記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	子どもの理解と援助
担当者	松岡 恵
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業内の課題・レポート、確認テスト</p> <p>【幼教2-2】幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。 成績評価方法: 授業内の課題・レポート、確認テスト、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>実践につながる新しい子どもの理解と援助—いま、ここに生きる子どもの育ちをみつめて 著者名:大浦賢治 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-09069-3)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	在宅保育		
担当者	永井 久美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①在宅保育の意義を理解し、保育所保育との違いを理解する。 ②乳児の発達をふまえ、発達に即した生活や遊びについて考えることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>ベビーシッター経験のある者が、その経験を活かして、在宅保育の援助や関わり等を指導します。本講義では、保護者の自宅等に保護者が出向いて保育にあたる在宅保育について、その概要や現状を学び、保育所保育との違いやベビーシッターの役割、基本姿勢や保育技術について実践的に学ぶ。授業で興味を持った内容について、それに関連する文献を読む等、意欲的に学びを深めてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習に関してはシラバスの「授業計画」に沿って、事前にテキストを読んでおいてください。また、授業後は、学修したことをノートにまとめてください。 講義2単位科目：各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 児童福祉における在宅保育 2. ベビーシッター概論 <ol style="list-style-type: none"> ①ベビーシッターサービスの背景と現状 ②ベビーシッターと施設型保育の相違点 ③在宅保育論の有効性と課題 3. 在宅保育における保育マインド 4. 在宅での子育て支援 5. ベビーシッターの基本姿勢 6. 家族とのコミュニケーション 7. 子どもの健康維持 8. 在宅での事故予防と対応 9. 在宅における保育技術 10. ベビーシッターの仕事の実際 11. さまざまなベビーシッターサービス①産後ケア、病後児保育 12. さまざまなベビーシッターサービス②送迎、同行、多胎児保育、学童保育 13. 総括 <p>・順序は変更する場合があります。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(20%)、各時間の課題(20%)、確認テスト(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>knagai@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	在宅保育
担当者	永井 久美子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 各時間の課題、確認テスト</p> <p>【幼教3-3】幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: 各時間の課題、確認テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>家庭訪問保育の理論と実際(第3版)居宅訪問型保育基礎研修テキスト・一般型家庭訪問保育学習テキスト 著者名: 公益社団法人 全国保育サービス協会 出版社: 中央法規出版株式会社 (978-4-8058-8427-0)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	社会的養護 I		
担当者	畠山 由佳子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標] 授業終了後、「子どもの最善の利益」のための社会的養護とは何かを、個々人で考えることができる。</p> <p>[授業概要] この科目は保育実習 I (施設)の単位取得のために修得すべき必修科目です。 児童福祉現場での実践経験のある教員が事例をあげながら指導します。 「子どもの最善の利益」を追求するための社会的養護について、その基本について体系的に学びます。 特に他の人の迷惑になるような私語等の行為をしている人は他の学生の授業を受ける権利を侵害しているとみなし、退出していただくようお願いすることがあります。 保育士資格取得のための必修授業となるため、授業態度およびその成果については将来の保育者としてふさわしいレベルを求めます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 社会的養護を巡る現代の状況について、新聞やニュースなどのメディアを通して常に関心を持っておき、質問ができるように準備をしておいてください。 授業で疑問に思ったことは質問できるように準備をしておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 社会的養護の概念① 社会的養護とは何か、養育・養護・保育・ケアの違い 3. 社会的養護の概念②とその体系 社会的養育ビジョンと児童福祉法改正 4. 施設における社会的養護① 社会的養護の現状についての説明 5. 施設における社会的養護② 里親養護と社会的養護 6. パーマネンシープランニング 7. 社会的養護における基本的原則－ウェルビーイング、自立、自己決定、自己実現 8. 施設養護における基本的原則－6つの基本的原則について 9. 社会的養育の在り方とパーマネンシー保障－養子縁組を前提とした養育里親(ビデオ) 10. 社会的養育の在り方とパーマネンシー保障－養育里親(ビデオ) 11. 社会的養護の現状(現場からの声) 12. 社会的養護の現状(実習における学び) 13. 社会的養育の現状と支援に関する理解度確認テスト実施・解説</p> <p>[成績評価方法] 授業参加度(15%) 理解度確認テスト(65%) 課題(レポート)(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題についてはコメントをつけて返却します。 理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] yhatake@kwjc.kobe-wu.ac.jp(パソコンからのメールが受信できるように設定を確認してからメール送付して下さい) 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入して下さい</p>			

授業科目名 (副題)	社会的養護 I
担当者	畠山 由佳子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 授業参加度、課題</p> <p>【 幼教2-2】幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。 成績評価方法: 授業参加度、課題</p> <p>【 幼教2-3】保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。 成績評価方法: 授業参加度、課題、理解度テスト</p> <p>【 幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 授業参加度、課題</p> <p>[テキスト(ISBN)] 社会的養護 I 著者名: 喜多一憲 出版社: みらい (9.78E+12)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	社会的養護Ⅱ		
担当者	畠山 由佳子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できる。 ②施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。 ③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できる。 ④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる。 ⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>児童福祉現場においてソーシャルワーク経験のある教員が児童福祉施設について現場の事例を用いながら指導します。 子どもの最善の利益を優先し、社会全体で子どもをはぐくむ社会的養護のあり方を具体的な事例を使いながら学んでいきます。 特に他の人の迷惑になるような私語等の行為をしている人は他の学生の授業を受ける権利を侵害しているとみなし、退出していただくようお願いすることがあります。 保育士資格取得のための必修授業となるため、授業態度およびその成果については将来の保育者としてふさわしいレベルを求めます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前もって各講義の授業のテキストの指定箇所を読み、質問事項を考えておいてください。また社会的養護に関連する時事問題についても新聞・テレビ・インターネットなどのメディアを通して理解を深めるようにしておいてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 児童福祉施設利用者について① 社会的養護が必要な子ども 3. 児童福祉施設利用者について② 専門的なケアを必要とする子ども 4. 援助の具体的内容① 養護の現場での子どもに対する支援 5. 援助の具体的内容② 子どもの個別性を大切にした支援 6. 援助の具体的内容③ 集団の場での支援 7. 援助の理念① 子どもの最善の利益 8. 援助の理念② 権利擁護 9. 児童福祉施設援助者について① 倫理について(事例をあげて) 10. 児童福祉施設援助者について② 専門的援助技術(事例をあげて) 11. 児童福祉施設援助者について③ ファミリーソーシャルワークの専門技術 12. 事例① パーマネンシー保障に対する支援 13. 事例② 実家族との間に対する支援 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業参加度 15%、リフレクションペーパー30 %、中間レポート 25% 最終レポート30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは評価後にコメントをつけて返却し、解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yhatake@kwjic.kobe-wu.ac.jp(パソコンからのメールが受信できるように設定を確認してからメール送付して下さい) 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入して下さい</p>			

授業科目名 (副題)	社会的養護Ⅱ
担当者	畠山 由佳子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業参加度、リフレクションペーパー、中間レポート、最終レポート</p> <p>【幼教2-3】保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。 成績評価方法: 授業参加度、リフレクションペーパー、中間レポート、最終レポート</p> <p>【幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 授業参加度、リフレクションペーパー</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『社会的養護Ⅱ』 著者名: 喜多 一憲 監修・堀場 純矢 編集 出版社: 未来 (9.7848601547e+12)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	社会福祉		
担当者	畠山 由佳子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①固定観念ではなく、独自の理解のなかで社会福祉の考え方とそのイメージをもつことができる。 ②社会福祉に関わる諸問題、制度、法律などの知識を得ることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>この科目は保育実習Ⅰ(保育所)、保育実習Ⅰ(施設)の単位取得のために修得すべき必修科目です。 社会福祉現場において経験のある教員が社会福祉について現場の事例を用いながら講義します。この講義では、さまざまな社会福祉の領域について触れることにより、社会福祉とは何かを理解することを目的とします。多くの事例や教材をとりあげ、より社会福祉を親しみやすいものにしていきます。また、社会福祉の基礎となる対人援助についても授業で取扱います。 出席されていても受講態度の悪い人は出席としない場合がありますので、注意してください。 特に他の人の迷惑になるような私語等の行為をしている人は他の学生の授業を受ける権利を侵害しているとみなし、退出していただくようお願いすることがあります。 受身でなく積極的に授業に参加してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業時間外において、新聞やニュースに関心を向け、社会福祉に関する時事問題をきちんとフォローし、質問を準備しておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の考え方 2. 社会福祉を取り巻く状況① 少子高齢化 3. 社会福祉を取り巻く状況② 家族の変化と地域福祉 4. 社会福祉のしくみ 制度と法律 5. 社会福祉の機関と施設 6. 社会福祉の援助と方法 ケースワークの方法とソーシャルワーク 7. 公的扶助と社会保障 8. 子ども家庭福祉 9. 高齢者福祉 介護保険のしくみ 10. 障害者福祉 障がいの概念とその考え方 11. 新しい社会福祉の考え方:多様性と共生社会 12. 新しい社会福祉の考え方:権利基盤の社会福祉に 13. 社会福祉全般に対する考察と総論 まとめ <p>[成績評価方法]</p> <p>授業参加度 20%、授業内レポート 40%。理解度確認テスト 40%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>理解度確認テストを回収後にテストの解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yhatake@kwjc.kobe-wu.ac.jp (パソコンからのメールが受信できるように設定を確認してからメール送付して下さい) 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入して下さい</p>			

授業科目名 (副題)	社会福祉
担当者	畠山 由佳子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 授業内レポート、理解度確認テスト</p> <p>【幼教2-2】幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。 成績評価方法: 授業内参加度、授業内レポート</p> <p>【幼教2-3】保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。 成績評価方法: 授業参加度、授業内レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『よくわかる社会福祉』 著者名:山縣文治 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4623069552)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	障害児保育 I		
担当者	安田 則子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解できるようになる。 ②障害児その他の特別な配慮を要する子どもの子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解できるようになる。 ③障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>保育現場における保育経験がある者が、その経験を活かして、障害児に対する援助の事例をあげて、説明をします。一般の保育と障害児保育との連続性に気づき、一人ひとりの発達上の課題に対する援助が障害児への援助にもつながることを理解します。保育場面における具体的な保育方法を学び、保護者への支援についても理解を深めます。障害児に対する保育者の姿勢が他の子どもにも大きな影響を与えます。最も立場の弱い人を大切にすることを子どもたちに示せる保育者になることを目指して、障害児を理解すると共に人としての自分をみつめる授業としてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習に関してはシラバスの「授業計画」に沿って、事前にテキストを読んでおいてください。また、授業後は、学修したことを自分なりにノートにまとめてください。 演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 障害児保育を支える理念 ・「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷 3. 障害児保育を支える理念 ・障害のある子どもの地域社会への参加・包容(インクルージョン)及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本 4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助 ・指導計画及び個別の支援計画の作成 5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助 ・個々の発達を促す生活や遊びの環境 6. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助 ・子ども同士の関わりと育ちあい 7. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助 ・障害児保育における子どもの健康と安全 8. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助 ・職員間の連携・協働 9. 家庭及び自治体・関係機関との連携 ・保護者や家族に対する理解と支援 10. 家庭及び自治体・関係機関との連携 ・保護者間の交流や支え合いの意義とその支援 11. 家庭及び自治体・関係機関との連携 ・障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関(保育所、児童発達支援センター等)の連携・協働 12. 家庭及び自治体・関係機関との連携 ・小学校等との連携 13. 障害児その他の特別な配慮を必要とする子どもの保育に関わる現状と課題 ・保健・医療、福祉・教育における現状と課題、支援の場の広がりとながら ・順序は変更する場合があります。 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(20%)、各時間の課題(20%)、レポート(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>連絡は、n-yasuda@kwjic.kobe-wu.ac.jp まで。 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	障害児保育 I
担当者	安田 則子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>【 幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業態度、各時間の課題、確認テスト</p> <p>【 幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 授業態度、各時間の課題、確認テスト</p> <p>[テキスト (ISBN)]</p> <p>『保育者のためのテキスト障害児保育』 改訂版 著者名: 白石正久・近藤直子・中村尚子編 出版社: 全障研出版部 (978-4-88134-125-4)</p> <p>[参考文献 (ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	障害児保育Ⅱ		
担当者	末永 美紀子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解できるようになる。 ②障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について、自分なりの理解や考えを言語化し、保育・教育現場で他の職員や関係者に報告、連絡、相談ができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>小児看護およびインクルーシブ保育での実務経験がある者が、その経験を活かして、障がいや疾病を持つ子どもや、医療的な配慮を必要とする子どもに対する援助の事例をあげ、観察や情報収集のポイントを説明しつつ、援助の方法を考えるプロセスを体験的に学習します。 障害や疾病を理解すると共に、障害児保育とくにインクルーシブ保育の基本的な理念と実践について学びます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習は、シラバスの「授業計画」に沿って、事前にテキストを読んでおいてください。また、授業中・後は、学修したことを自分なりにノートにまとめてください。 演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ・ OODAループと観察、記録のポイント・参考資料とサイトの探し方 2. 知的障害児(ダウン症を中心に)の理解・援助 3. 発達障害児の理解(ASD-自閉スペクトラム症等) 4. 発達障害児の援助(ASD-自閉スペクトラム症等) 5. 発達障害児の理解(ADHD-注意欠陥多動性障害、LD-学習障害等) 6. 発達障害児の援助(ADHD-注意欠陥多動性障害、LD-学習障害等) 7. 視覚障害児、色覚少数者の理解と援助 8. 聴覚障害児・言語障害児等の理解・援助 9. 肢体不自由児、てんかんの理解 10. 重症心身障害児、医療的ケア児の理解 11. 肢体不自由児、てんかん・重症心身障害児の援助 12. 医療的ケア児の援助 13. レポートへのフィードバックと、グループディスカッション <p>・順序は変更する場合があります。</p> <p>障害児とその家族に対応する保育者の視点や態度は、他の子どもにも大きな影響を与えます。誰もが保育や教育を受ける権利があり、合理的配慮を受けつつ社会に参加する権利を持つひとりの子どもの成長を支援する、という視点や態度を身に付けてください。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業後の提出物(45%)、レポート(40%)、集団授業への貢献(質問・発言・グループワーク)(15%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートを回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>連絡は、m-suenaga@suma.kobe-wu.ac.jpまで。 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	障害児保育Ⅱ
担当者	末永 美紀子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 授業後の提出物、レポート、集団授業への貢献(質問・発言・グループワーク)で評価します。</p> <p>【 幼教3-3】幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: 授業後の提出物、レポート、集団授業への貢献(質問・発言・グループワーク)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『医療的配慮の必要な子どもの保育』 著者名: 西村 実穂(編集), 徳田 克己(編集) 出版社: 中央法規出版 (978-4805855232) 酒井 幸子(著), 守 巧(著) 著者名: チャイルド本社 出版社: 978-4805402818</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>守 巧(著) 著者名: チャイルド本社 出版社: 978-4805402962</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	食育論(子どもと食生活)		
担当者	平田 庸子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①食育の必要性をまなび現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を身に付けることができる。 ②食育の実践に向けて、幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>授業では、まず現代の子どもの食事情についての現状や課題を理解します。さらに食と子どもの健康や病気との関わり、栄養バランスのとれた食べ方について習得します。また子どもたちの心を豊かに育む家庭の味や食文化の大切さを考えます。さらに食育や食に関する新聞記事を収集し、日本や地域における食育の現状を把握して食育に係わる立場としての視野を広げます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>食育および食に関する新聞記事を探して、情報収集をしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食育の必要性、食育基本法 2. 子どもの食の問題点 3. 子どもの生活習慣と健康(朝食の欠食や偏食) 4. 子どもの肥満と生活習慣病(メタボリックシンドローム) 5. 栄養バランスのとれた食べ方とは(1) 3色食品群、6つの基礎食品 6. 栄養バランスのとれた食べ方とは(2) 主食+主菜+副菜の組み合わせ 7. 食物アレルギーの概要とガイドライン 8. 食物アレルギーの保育所での対応 9. 食の安全について 10. 日本の食文化と和食のよさ 行事食について 11. 子どもたちに伝えたい食のスキルとマナー 12. 食育および食に関する新聞記事を活用した学習 13. 食育に関する知識と食育への係り方についての理解度の確認・まとめ <p>[成績評価方法]</p> <p>レポート(40%)、理解度確認(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは、後日授業の中で解説し返却します。 理解度確認を回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yo-hirata@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	食育論(子どもと食生活)
担当者	平田 庸子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法:レポート 発表 理解度確認</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法:レポート 発表 理解度確認</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし (×)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	食生活基礎技術演習		
担当者	桐原 美恵子、平田 庸子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①食育の必要性を理解し、保育者の立場として人に伝えることができる。 ②食育遊びを通して、基本的な食育・食農についての知識や技術を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①保育現場での経験のある者が、幼児や保護者の実態や考え方などを踏まえた食育について指導します。 ②食育の必要性や保育の場で求められている食育についての在り方について講義をします。 ③食育媒体を作成し、幼児が主体的に学べるような保育の工夫について修得します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な食材について知識を広げたり、関心をもったりしてください。 ・食育に関する絵本や紙芝居などに親しんでください。 ・子どもの発達について復習をし、食育媒体作成に活かしてください。 ・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期における食育の位置づけと取り組み (平田) 2. 保育所・幼稚園での給食や行事を通しての食育 (平田) 3. 保育における食育・食農について①(弁当・給食) (桐原) 4. 保育における食育・食農について②(栽培活動) (桐原) 5. 幼稚園・保育所での食育指導、幼児期の食における問題 (桐原) 6. 演習:食育指導例①(DVD視聴から学ぶ) (桐原) 7. 演習:食育指導例②(食育遊びの実践) (桐原) 8. 演習:食育指導例③(保育指導案の作成) (桐原) 9. 食育媒体(食育カルタ)の制作①グループでテーマの作成 (桐原) 10.食育媒体(食育カルタ)の制作②字札内容について (桐原) 11.食育媒体(食育カルタ)の制作③字札と絵札について (桐原) 12.食育媒体(食育カルタ)の制作④カルタの作成 (桐原) 13.食育媒体(食育カルタ)の制作⑤実践の反省と評価 (桐原) <p>[成績評価方法]</p> <p>食育媒体作成、実践(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートや作成した指導案などは添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(平田) yo-hirata@kwjc.kobe-wu.ac.jp (桐原) mkirihara@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	食生活基礎技術演習
担当者	桐原 美恵子、平田 庸子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 食育媒体作成、実践、授業態度</p> <p>【幼教2-2】幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。 成績評価方法: レポート、実践</p> <p>[テキスト(ISBN)] 適宜プリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 厚生労働省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81448-2 (『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』) フレーベル館 著者名: 978-4-577-81449-9</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	造形表現研究		
担当者	辻田 美和		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	作品制作活動		

[到達目標]

保育者としての造形表現力を深め、子どもの造形表現活動の援助に必要な実践力を身に付けることができる。

[授業概要]

造形表現の理解を深め、子どもの造形表現活動の援助に必要な知識や技能の研究と、保育者としての造形表現力を「ものづくりの楽しさ」を体験しながら実践を通して深めます。実際に作品を制作していく中で、子どもの造形表現活動の援助に必要なさまざまな要素を自ら見つけ出し学んでいきます。

授業では、学びの軌跡の可視化をめざしてテーマごとのワークシートに取り組み、制作した作品とともに、ドキュメンテーションを作成します。
造形表現活動を自ら楽しみながら取り組んでください。各自でリサイクル作品用材料の準備をしてください。詳しくは授業にて説明します。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

日頃から子どもの造形表現活動に関心を持ち、造形作品展などの鑑賞の機会を持ってください。授業内に作品が完成しなかった場合は、次回授業までに取り組んでおいてください。

各回の講義についての予習・復習を行うこと。(各回、予習・復習合わせて1時間程度)

[授業計画]

1. 子どもの造形表現活動の実践・はじめてのフェルト作り①研究・制作
2. 子どもの造形表現活動の実践・はじめてのフェルト作り②制作・平面
3. 子どもの造形表現活動の実践・観察して描く①研究・制作
4. 子どもの造形表現活動の実践・観察して描く②制作・鑑賞
5. 子どもの造形表現活動の実践・リサイクルで作る①研究・制作
6. 子どもの造形表現活動の実践・リサイクルで作る②制作と展開
7. 子どもの造形表現活動の実践・立体的な表現①研究
8. 子どもの造形表現活動の実践・立体的な表現②制作
9. 子どもの造形表現活動の実践・立体的な表現③制作と展開
10. 子どもの造形表現活動の実践・立体的な表現④発表
11. 子どもの造形表現活動と鑑賞
12. 作品の展示と鑑賞・記録①ドキュメンテーション
13. 作品の展示と鑑賞・記録②発表 振り返り

[成績評価方法]

作品制作活動と作品(60%)、ワークシートとドキュメンテーション(30%)の提出物と受講態度・制作態度(10%)で評価します。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

制作作品は展示・鑑賞活動の後、振り返りを行い返却します。各テーマごとのワークシートは授業内に振り返りを行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

mtsujita@kwjc.kobe-wu.ac.jp

質問等がある場合は、メール本文に学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。

授業科目名 (副題)	造形表現研究
担当者	辻田 美和
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。</p> <p>成績評価方法: 作品制作活動、ワークシートの作成</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。</p> <p>成績評価方法: 作品制作活動とドキュメンテーション</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>使用しません</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>東山明 監修 著者名: 明治図書 出版社: 978-4-18-031712-7 (『幼児の造形ニューヒット教材集2手づくりおもちゃ・立体造形編』)</p> <p>明治図書 著者名: 978-4-18-031816-2</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	造形表現研究		
担当者	辻田 美和		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	作品制作活動		

[到達目標]

保育者としての造形表現力を深め、子どもの造形表現活動の援助に必要な実践力を身に付けることができる。

[授業概要]

造形表現の理解を深め、子どもの造形表現活動の援助に必要な知識や技能の研究と、保育者としての造形表現力を「ものづくりの楽しさ」を体験しながら実践を通して深めます。実際に作品を制作していく中で、子どもの造形表現活動の援助に必要なさまざまな要素を自ら見つけ出し学んでいきます。

授業では、学びの軌跡の可視化をめざしてテーマごとのワークシートに取り組み、制作した作品とともに、ドキュメンテーションを作成します。
造形表現活動を自ら楽しみながら取り組んでください。各自でリサイクル作品用材料の準備をしてください。詳しくは授業にて説明します。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

日頃から子どもの造形表現活動に関心を持ち、造形作品展などの鑑賞の機会を持ってください。授業内に作品が完成しなかった場合は、次回授業までに取り組んでおいてください。

各回の講義についての予習・復習を行うこと。(各回、予習・復習合わせて1時間程度)

[授業計画]

1. 子どもの造形表現活動の実践・はじめてのフェルト作り①研究・制作
2. 子どもの造形表現活動の実践・はじめてのフェルト作り②制作・平面
3. 子どもの造形表現活動の実践・観察して描く①研究・制作
4. 子どもの造形表現活動の実践・観察して描く②制作・鑑賞
5. 子どもの造形表現活動の実践・リサイクルで作る①研究・制作
6. 子どもの造形表現活動の実践・リサイクルで作る②制作と展開
7. 子どもの造形表現活動の実践・立体的な表現①研究
8. 子どもの造形表現活動の実践・立体的な表現②制作
9. 子どもの造形表現活動の実践・立体的な表現③制作と展開
10. 子どもの造形表現活動の実践・立体的な表現④発表
11. 子どもの造形表現活動と鑑賞
12. 作品の展示と鑑賞・記録①ドキュメンテーション
13. 作品の展示と鑑賞・記録②発表 振り返り

[成績評価方法]

作品制作活動と作品(60%)、ワークシートとドキュメンテーション(30%)の提出物と受講態度・制作態度(10%)で評価します。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

制作作品は展示・鑑賞活動の後、振り返りを行い返却します。各テーマごとのワークシートは授業内に振り返りを行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

mtsujita@kwjc.kobe-wu.ac.jp

質問等がある場合は、メール本文に学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。

授業科目名 (副題)	造形表現研究
担当者	辻田 美和
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。</p> <p>成績評価方法: 作品制作活動、ワークシートの作成</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。</p> <p>成績評価方法: 作品制作活動とドキュメンテーション</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>使用しません</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>東山明 監修 著者名: 明治図書 出版社: 978-4-18-031712-7 (『幼児の造形ニューヒット教材集2手づくりおもちゃ・立体造形編』)</p> <p>明治図書 著者名: 978-4-18-031816-2</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	特別支援教育		
担当者	土居下 晃宏		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標] 特別な支援を必要とする幼児への理解と組織的な対応や知識、支援方法について理解することができる。</p> <p>[授業概要] 幼児一人一人のニーズがあることを理解し、それぞれの幼児に寄り添えるような対応や支援方法について探求し学んでいきます。 積極的な態度で授業に臨んでください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育とは① ・オリエンテーション 特別支援教育について 2. 特別支援教育とは② ・インクルーシブ教育について 3. 特別な配慮を必要とする幼児の理解① ・幼児期の特性と発達 4. 特別な配慮を必要とする幼児の理解② ・子供の課題について(社会性の課題) 5. 特別な配慮を必要とする幼児の理解③ ・子供の課題について(行動面での課題) 6. 特別な配慮を必要とする幼児の理解④ ・ケースから①② 7. 保護者の理解 8. 保育者として大切にしたいこと 9. 特別な支援を必要とする幼児への支援①・「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」 10. 特別な支援を必要とする幼児への支援② ・「個別の指導計画」の作成 11. 特別な支援を必要とする幼児への支援③ ・関係機関との連携と小学校への接続 12. 特別な支援を必要とする幼児への支援④ ・課題に応じた実践 13. 幼稚園の実際(保育参観) <p>[成績評価方法] 小テスト(50%)、レポート(40%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストを回収後、解答の解説をします。 レポートは、後日返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] a.doishita.ed.ad@gmail.com 質問等がある場合はメール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	特別支援教育
担当者	土居下 晃宏
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法:小テスト レポート 授業態度</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法:小テスト レポート 授業態度</p> <p>【幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法:小テスト レポート 授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] 適宜資料を配布する</p> <p>[参考文献(ISBN)] 内閣府/文部科学省/厚生労働省 (『保育所保育指針』(平成29年3月告示)及び『保育所保育指針解説』) なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	乳児保育 I		
担当者	安田 則子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解できるようになる。 ②保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できるようになる。 ③3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できるようになる。 ④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>保育現場における保育経験のある者が、その経験を活かして、3歳未満児の援助や関わり等を指導します。乳児保育の変遷を知り、乳児保育の基本を理解します。乳児の発達と保育について学び、大人の援助のあり方について考えます。 子どもの発達をおさえること、遊びを通して子どもがいかに育つか、保育者としてどうかかわればよいのかを一緒に考えていきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習に関してはシラバスの「授業計画」に沿って、事前にテキストを読んでおいてください。また、授業後は、学修したことをノートにまとめてください。 講義2単位科目：各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 3. 乳児保育の役割と機能 4. 乳児保育における養護及び教育 5. 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 6. 保育所における乳児保育 7. 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 8. 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 9. 3歳未満児の生活と環境、3歳未満児の遊びと環境 10. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 11. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 12. 乳児保育における計画・記録・評価とその意義 13. 乳児保育における連携・協働 <ol style="list-style-type: none"> ①職員間の連携・協働 ②保護者との連携・協働 ③自治体や地域の関係機関等との連携・協働 <p>・順序は変更する場合があります。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(20%)、各時間の課題(20%)、レポート(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>n-yasuda@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	乳児保育 I
担当者	安田 則子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業態度、各時間の課題、レポート</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 授業態度、各時間の課題、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『コンパス乳児保育』 著者名: 咲間まり子 出版社: 建帛社 (978-4-7679-5063-1) 株式会社フレーベル館 著者名: 978-4-577-81448-2</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	乳児保育Ⅱ		
担当者	永井 美佳		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①子どもの人権を尊重し、3歳未満児の発育・発達の特徴を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解できるようになる。</p> <p>②養護及び教育の一体性を踏まえた3歳未満児の子どもの生活や遊びの環境構成について、理解できるようになる。</p> <p>③乳児保育における援助や配慮について考察し、実践できるようになる。</p> <p>④上記①～③を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>保育現場における保育経験のある者が、その経験を活かして、3歳未満児の発達・発育を踏まえた援助や関わりを指導します。</p> <p>乳児保育の基本を理解したうえで、保育現場の事例をもとに、適切な関わり方や応答的な援助のあり方について学びます。</p> <p>具体的な事例をもとにグループワークやディスカッションを行い、主体的な学びを通して保育者に求められる望ましい対応や表現力を身に付けていきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習に関してはシラバスの「授業計画」に沿って、事前にテキストを読んでおいてください。</p> <p>演習1単位科目：各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2. 子どもの1日の生活の流れと保育の環境 3. 子どもの生活や遊びを支える環境の構成 4. 子ども同士の関わりとその援助の実際 5. 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 6. 集団での生活における配慮、環境の変化や移行に対する配慮 7. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 8. 子どもの保育士等との関係の重要性 9. 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり 10. 子どもの主体性の尊重と自己の育ち、子どもの体験と学びの芽生え 11. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 12. 長期的な指導計画と短期的な指導計画 13. 個別的な指導計画と集団の指導計画 <p>・順序は変更する場合があります。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(20%)、理解度確認テスト(30%)、レポート(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は回収後、助言や解説を行います。</p> <p>質問内容から共有が必要だと思われる項目について、次回の授業内容に取り入れ、一緒に考えます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>連絡は、m-nagai@kwjc.kobe-wu.ac.jp まで。</p> <p>質問等がある場合は、メール本文に、学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	乳児保育Ⅱ
担当者	永井 美佳
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教1-2 】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発達を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業態度(20%)、理解度確認テスト(30%)、レポート(50%)</p> <p>【 幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 授業態度(20%)、理解度確認テスト(30%)、レポート(50%)</p> <p>【 幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 授業態度(20%)、理解度確認テスト(30%)、レポート(50%)</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『新指針・要領からみる 0歳児から主体性を育む保育のQ&A』 著者名:西川正晃 大橋美智子 出版社:株式会社みらい (978-4-86015-469-1 C3037) 株式会社フレーベル館 著者名:978-4-577-81448-2</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育・教職実践演習(幼稚園)		
担当者	桐原 美恵子、川村 高弘		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①実習で学んだ子どもへの理解や援助、施設の機能とそこでの保育者の役割について、自分なりの考えを言葉や文章で表現することができる。</p> <p>②使命感や責任感、社会性や対人関係能力など、保育者として必要な資質について学び、周りの人とコミュニケーションをがとれるようになる。</p> <p>③目指す保育者像に向けて、自己課題を明確にするとともに、保育者としての意識を高めることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①幼稚園現場での教員経験のある者が、その経験を活かして、幼児期の生活や遊び、保育者の役割等について指導します。</p> <p>②幼稚園実習や幼稚園参観など実地での経験をもとに、そこでの気づきやつまずき、疑問や悩み等を整理し、自己の修得すべき課題を明確にしていきます。</p> <p>③外部講師や様々な教員の講話により、保育者としての自覚をもつとともに幅広い保育の在り方を習得します。</p> <p>④幼児の興味・関心を捉え、そこから出発した遊びへの導き、幼児への言葉かけ、保護者への対応等、必要な学びを深めていきます。また、模擬保育等により保育の実践力を修得していきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育・教育の現場にいる外部講師から学んだり、実際に幼稚園に出かけたりして実際の学びを深めていくために、事前にその授業のねらいや自己の課題を明確にしてください。 ・保育に関するニュースや出来事について見聞を広め、「履修カルテ」に記録してください。 ・指示されたレポートや課題は、確実に仕上げてください。(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、履修カルテを用いて自己評価とこれまでの履修や活動の振り返り・自己課題についてグループ討論(桐原) 2. 社会性を育てる表現あそび(川村) 3. 創造性を育てる表現あそび(川村) 4. 幼稚園現場での保育(保育参観)(桐原・川村) 5. 保育参観および動画による振り返りとグループ課題についての学び(桐原) 6. 現職教員から学ぶ:幼稚園運営と幼小連携等について講話(学外特別講師・桐原・大西・川村) 7. 感覚や気づきを育てる表現あそびの実践(川村) 8. グループによる事例研究①:遊びを創る保育の実践(桐原) 9. 自然環境について講義(学外特別講師・桐原・大西・川村) 10. 教育実習のフィードバック、グループによる事例研究②:幼児が楽しむ遊びの指導案の作成(桐原) 11. グループによる事例研究③:模擬保育とグループ相互の評価、レポート・履修カルテ作成(桐原) 12. 震災・命について講義(学外特別講師・桐原・大西・川村) 13. グループ課題のまとめ、自己課題確認と評価(桐原) <p>[成績評価方法]</p> <p>実技指導の達成状況(40%)、レポート・履修カルテ(40%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートや履修カルテは添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(大西) yohnishi@kwjc.kobe-wu.ac.jp (川村) tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp (桐原) mkirihara @kwjc.kobe-wu.ac.jp</p> <p>質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育・教職実践演習(幼稚園)
担当者	桐原 美恵子、川村 高弘
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 実技指導の達成状況、レポート</p> <p>【幼教2-3】保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。 成績評価方法: 履修カルテ、授業態度</p> <p>【幼教3-3】幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: 履修カルテ</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 厚生労働省編 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81448-2 (『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』) フレーベル館 著者名: 978-4-577-81449-9</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育・教職実践演習(幼稚園)		
担当者	大西 眞弓		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①実習で学んだ子どもへの理解や援助、施設の機能とそこでの保育者の役割について、自分なりの考えを言葉や文章で表現することができる。</p> <p>②使命感や責任感、社会性や対人関係能力など、保育者として必要な資質について学び、周りの人とコミュニケーションがとれるようになる。</p> <p>③目指す保育者像に向けて、自己課題を明確にするとともに、保育者としての意識を高めることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①幼稚園現場での教員経験のある者が、その経験を活かして、幼児期の生活や遊び、保育者の役割等について指導します。</p> <p>②幼稚園実習や幼稚園参観など実地での経験をもとに、そこでの気づきやつまづき、疑問や悩み等を整理し、自己の修得すべき課題を明確にしていきます。</p> <p>③外部講師や様々な教員の講話により、保育者としての自覚をもつとともに幅広い保育の在り方を習得します。</p> <p>④幼児の興味・関心を捉え、そこから出発した遊びへの導き、幼児への言葉かけ、保育者への対応等、必要な学びを深めていきます。また、模擬保育等により保育の実践力を修得していきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育・教育の現場にいる外部講師から学んだり、実際に幼稚園に出かけたりして実際の学びを深めていくために、事前にその授業のねらいや自己の課題を明確にしてください。 ・保育に関するニュースや出来事について見聞を広め、「履修カルテ」に記録してください。 ・指示されたレポートや課題は、確実に仕上げてください。(各回、予習・復習合わせて1時間程度) <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、履修カルテを用いて自己評価とこれまでの履修や活動の振り返り・自己課題についてグループ討論(大西) 2. 社会性を育てる表現遊び(川村) 3. 創造性を育てる表現遊び(川村) 4. 幼稚園現場での保育(保育参観)(大西) 5. 保育参観の振り返りとグループ課題についての学び(大西) 6. 現職教員から学ぶ:幼稚園運営と幼小連携等について講話(学外特別講師・桐原・川村・大西) 7. 感覚や気づきを育てる表現遊びの実践(川村) 8. グループによる事例研究① 保育室の環境構成を考える(大西) 9. 自然環境について講義(学外特別講師・桐原・川村・大西) 10. グループによる事例研究② 学びの軌跡ドキュメンテーションの作成(情報機器の活用を含む)(大西) 11. グループによる事例研究③ 学びの軌跡ドキュメンテーションの発表と評価(大西) 12. 震災・命について講義(学外特別講師・桐原・川村・大西) 13. グループ課題のまとめ、自己課題確認と評価(大西) <p>[成績評価方法]</p> <p>実技指導の達成状況(40%)、レポート・履修カルテ(40%)、受講態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートや履修カルテは添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(大西) yohnishi@kwjc.kobe-wu.ac.jp (川村) tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp (桐原) mkirihara@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p> <p>質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育・教職実践演習(幼稚園)
担当者	大西 眞弓
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 実技指導の達成状況、レポート</p> <p>【幼教2-3】保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。 成績評価方法: 履修カルテ、授業態度</p> <p>【幼教3-3】幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: 履修カルテ</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 厚生労働省編 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81448-2 (『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』) フレーベル館 著者名: 978-4-577-81449-9</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育カウンセリング		
担当者	松岡 恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①子どもや保護者との関わりにおける受容・共感的な態度をとることができる。 ②保護者と円滑にコミュニケーションできる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>公認心理師・臨床心理士・臨床発達心理士資格を有し、その実務経験のある授業担当者が、その経験を活かして、教育・臨床現場などの心理社会的テーマの事例を取り上げながら、授業を展開します。 子どもが心を開放して自己表現できるような支援の仕方、および保護者と信頼関係を結ぶためのカウンセリングに基づいた技法を習得し、実践的取り組みをします。 テーマごとにワークシートがあります。授業の内容から自分でテーマに応じた問いや課題を見つけ、保育場面でも活用できるよう課題には主体的に取り組んでください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>次回の授業で取りあげるテーマに添ってテキストを読んで予習して下さい。また、授業後は、復習として配布資料をよく読み、学習したことを自分なりにノートにまとめてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 教育相談って何するの？ 2.子どもを理解する 3.保護者への支援 4.カウンセリングマインド 5.相談にのるための技法①傾聴／非言語的コミュニケーション 6.相談にのるための技法②言語による応答／好ましくない応答 7.その他の技法—行動療法など 8.園内の教育相談体制 9.遊戯療法 10.地域のネットワークについて 11.保育者のメンタルヘルス 12.外部との連携 13.保育カウンセリングをめぐる諸問題 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業参加度(30%)、ワークシート・レポート(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業内に行ったワークや課題には内容によって個人又は全体へのフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>m-matsuoka@kwjic.kobe-wu.ac.jp 質問などがある場合には、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項などを記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育カウンセリング
担当者	松岡 恵
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 授業参加度、ワークシート、レポート</p> <p>【 幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 授業参加度、ワークシート、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『スギ先生と学ぶ教育相談のきほん』 著者名: 杉崎雅子 出版社: 萌文書林 (978-4-89347-315-8)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育原理		
担当者	川村 高弘		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①保育の意義や目的について理解することができる。 ②保育に関する法令や制度について理解することができる。 ③保育所保育指針における保育の基本について理解することができる。 ④保育の思想と歴史の変遷について理解することができる。 ⑤保育の現状と課題について理解することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>幼稚園長の経験を有する教員が、保育の意義、目的等、保育原理について指導を行います。保育の意義、目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本について学んでいきます。また、保育の思想、歴史の変遷、保育の現状と課題についても学びます。教科書の予習・復習を行うとともに、授業内容を整理するよう心がけてください。また、授業には積極的に参加してください。さらに、日頃から保育に関する問題についての情報をニュースや新聞等で得るようにしておいてください。この科目は保育実習Ⅰ(保育所)、保育実習Ⅰ(施設)の単位取得のために修得すべき必修科目です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>シラバスの「授業計画」に沿って授業に参加する前に必ずテキストを読み、初めて出会う用語の意味を調べておいてください。また、授業後は講義内容についての復習を行い、自己課題について探求してください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義と目的 2. 保育の社会的役割と責任 3. 保育に関する法令と制度 4. 日本における保育の思想と歴史①近代 5. 日本における保育の思想と歴史②戦後 6. 保育所保育指針における保育の基本 7. 保育を基礎から考える 8. 哲学実践の基本 9. 保育を多角的に考える 10. 保育における養護 11. 保育の環境・方法 12. 諸外国の保育の現状と課題 13. 日本の保育の現状と課題 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(10%)、レポート・課題等の提出物(10%)、小テスト(80%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は提出後、添削して返却します。小テストは、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メールの件名に授業名・学科名・氏名を記載し、メール本文に質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育原理
担当者	川村 高弘
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート・課題等の提出物、小テストで評価します。</p> <p>【幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート・課題等の提出物、小テストで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『哲学する保育原理』 著者名: 伊藤潔志(編) 出版社: 教育情報出版 (978-4-909378-00-2)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>文部科学省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81422-2 (『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』)</p> <p>フレーベル館 著者名: 978-4-577-81424-6</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育原理		
担当者	川村 高弘		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①保育の意義や目的について理解することができる。 ②保育に関する法令や制度について理解することができる。 ③保育所保育指針における保育の基本について理解することができる。 ④保育の思想と歴史的変遷について理解することができる。 ⑤保育の現状と課題について理解することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>幼稚園長の経験を有する教員が、保育の意義、目的等、保育原理について指導を行います。 保育の意義、目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本について学んでいきます。 また、保育の思想、歴史的変遷、保育の現状と課題についても学びます。 教科書の予習・復習を行うとともに、授業内容を整理するよう心がけてください。また、授業には積極的に参加してください。さらに、日頃から保育に関する問題についての情報をニュースや新聞等で得るようにしておいてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>シラバスの「授業計画」に沿って授業に参加する前に必ずテキストを読み、初めて出会う用語の意味を調べておいてください。また、授業後は講義内容についての復習を行い、自己課題について探求してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義と目的 2. 保育の社会的役割と責任 3. 保育に関する法令と制度 4. 日本における保育の思想と歴史①近代 5. 日本における保育の思想と歴史②戦後 6. 保育所保育指針における保育の基本 7. 保育を基礎から考える 8. 哲学実践の基本 9. 保育を多角的に考える 10. 保育における養護 11. 保育の環境・方法 12. 諸外国の保育の現状と課題 13. 日本の保育の現状と課題 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(10%)、レポート・課題等の提出物(10%)、小テスト(80%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は提出後、添削して返却します。小テストは、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メールの件名に授業名・学科名・氏名を記載し、メール本文に質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育原理
担当者	川村 高弘
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート・課題等の提出物、小テストで評価します。</p> <p>【幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート・課題等の提出物、小テストで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『哲学する保育原理』 著者名: 伊藤潔志(編) 出版社: 教育情報出版 (978-4-909378-00-2)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>文部科学省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81422-2 (『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』)</p> <p>フレーベル館 著者名: 978-4-577-81424-6</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育実習 I (施設)		
担当者	畠山 由佳子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解できる。 ②既習の強化全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養うことができる。 ③保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶことができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>社会福祉現場において経験のある教員が社会福祉について現場の事例を用いながら指導します。保育実習 I (施設)については、便覧の「保育士養成課程について」をよく読んでおいてください。</p> <p>1. 施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解します。 2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養います。 3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体的について学びます。 実際に施設現場を経験する初めての実習です。保育士としての自覚を持ち、子どもたちと現場の職員の方々に敬意を払い実習に励んでください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分が行く予定の施設について事前に教科書や関連図書等で事前に必要な知識を付けておくこと。また、簡単な家事技術についても実習では必要なので身に付けておいてください。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1. 実習施設についての理解を行う 2. 養護の一日の流れの理解と参加 3. 子どもの観察やかかわりを通して、参加 4. 援助計画を理解する 5. 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する 6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解をする 7. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する 8. 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ 9. 保育士としての職業倫理を理解する 10. 安全および疾病予防への配慮について理解する</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>事前・事後指導を含む事前の準備態度・提出物(20%)、実習日誌・実習施設からの評価(80%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>評価について個別にフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yhatake@kwjc.kobe-wu.ac.jp(パソコンからのメールが受信できるように設定を確認してからメール送付して下さい)</p>			

授業科目名 (副題)	保育実習 I (施設)
担当者	畠山 由佳子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 事前・事後指導を含む事前の準備態度・提出物、実習日誌・実習施設からの評価</p> <p>【幼教2-2】幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。 成績評価方法: 実習日誌・実習施設からの評価</p> <p>【幼教2-3】保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。 成績評価方法: 実習日誌・実習施設からの評価</p> <p>【幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 事前・事後指導を含む事前の準備態度・提出物</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 実習日誌・実習施設からの評価</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育実習 I (保育所)		
担当者	川村 高弘、安田 則子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①保育所の役割や機能を具体的に理解できるようになる。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めることができるようになる。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解できるようになる。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解できるようになる。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>クラスに配属され、子どもに直にふれるとともに、保育士による保育及び子ども並びに保護者との関わりを観察します。また、実習園の一日の生活の流れ、保育環境について理解します。さらに、日々の実習記録をまとめ、指導計画を立案し、部分実習を行います。</p> <p>先輩保育士から学ぶ姿勢で臨み、積極性と意欲をもって多くを吸収してください。また、子どもの良いモデルとなれるようことば遣い、態度、所作に注意してください。</p> <p>なお、保育実習 I (保育所)については、便覧の「保育士養成課程について」をよく読んでおいてください。 この科目は保育実習 II 又は保育実習 III の単位取得のために修得すべき必修科目です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>資料を自ら探し、教材研究に取り組んでおいてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> ①保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり ②保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの観察とその記録による理解 3. 子どもの発達過程の理解 4. 子どもの援助や関わり 5. 保育の計画に基づく保育内容 6. 子どもの発達過程に応じた保育内容 7. 子どもの生活や遊びと保育環境 8. 子どもの健康と安全 9. 保育の計画・観察・記録 <ol style="list-style-type: none"> ①全体的な計画と指導計画及び評価の理解 ②記録に基づく省察・自己評価 10. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> ①保育士の業務内容 ②職員間の役割分担や連携・協働 ③保育士の役割と職業倫理 <p>[成績評価方法]</p> <p>実習記録(50%)、実習施設による評価(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(安田)n-yasuda@kwjc.kobe-wu.ac.jp (川村)tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メールの件名に授業名・学科名・氏名を記載し、メール本文に質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育実習 I (保育所)
担当者	川村 高弘、安田 則子
<p>【この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)】</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法:実習記録、実習施設による評価で評価します。</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法:実習記録、実習施設による評価で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育実習Ⅱ		
担当者	川村 高弘、安田 則子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深めることができるようになる。 ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深めることができるようになる。 ③既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解できるようになる。 ④保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深めることができるようになる。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解することができるようになる。 ⑥実習におけ</p> <p>[授業概要]</p> <p>保育士、保育所長の経験を有する教員が、保育実習について指導を行います。 クラスに配属され、子どもに直にふれるとともに、保育士による保育及び子ども並びに保護者との関わりを観察します。また、実習園の一日の生活の流れ、保育環境について理解を深めていきます。さらに、日々の実習記録をまとめ、指導計画を立案し、部分実習、全日実習を行います。 先輩保育士から学ぶ姿勢で臨み、積極性と意欲をもって多くを吸収してください。また、子どもの良いモデルとなれるようことば遣い、態度、所作に注意してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>資料を自ら探し、教材研究に取り組んでおいてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護と教育が一体となって行われる保育 2. 保育所の社会的役割と責任 3. 子どもの心身の状態や活動の観察 4. 保育士等の援助や関わり 5. 保育所の生活の流れや展開の把握 6. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> ①環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 ②入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 ③関係機関や地域社会との連携・協働 7. 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 8. 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 9. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> ①多様な保育の展開と保育士の業務 ②多様な保育の展開と保育士の職業倫理 10. 自己の課題の明確化 <p>[成績評価方法]</p> <p>実習記録(50%)、実習施設による評価(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(川村)tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp (安田)n-yasuda@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メールの件名に授業名・学科名・氏名を記載し、メール本文に質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育実習Ⅱ
担当者	川村 高弘、安田 則子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 実習記録、実習施設による評価します。</p> <p>【 幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 実習記録、実習施設による評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育実習Ⅲ		
担当者	畠山 由佳子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			

[到達目標]

- ①児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することができる。
 ②家族と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養うことができる。

[授業概要]

保育実習Ⅲについては、便覧の「保育士養成課程について」をよく読んでおいてください。

児童福祉領域で実践経験のある教員が事例を挙げながら指導します。

1. 施設の保育を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得します。
2. 家族と施設の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要な能力を養います。

受講生は施設保育士を目指す人のみが対象となります。必ず事前に担当教員と面談をしたうえで履修してください。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

自分の実習先について事前に調べておき知識を付けておいてください。

将来、施設保育士として働くための知識・技術・価値を常に得ることを目的として学ぶ姿勢を持っておいてください。

[授業計画]

1. 養護全般への参加と養護技術を習得を行う。
2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。
3. 援助計画を立案し、実際に実践する。
4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。
5. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。
6. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
7. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
8. 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。

[成績評価方法]

事前・事後指導を含む事前の準備(20%)、実習日誌・実習施設からの評価(80%)で評価します。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

実習評価について個別にフィードバックを行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

yhatake@kwjc.kobe-wu.ac.jp(パソコンからのメールが受信できるように設定を確認してからメール送付して下さい)
 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入して下さい

授業科目名 (副題)	保育実習Ⅲ
担当者	畠山 由佳子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 実習日誌・実習施設からの評価</p> <p>【 幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 事前・事後指導を含む事前の準備</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育実習指導 I (事後)		
担当者	川村 高弘、畠山 由佳子、安田 則子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①保育実習 I・II で学んだことを土台とし、保育者としての知識、技術を身に付けることができるようになる。 ②実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>保育士、保育所長の経験を有する教員が、保育実習の振り返りを行います。保育実践に役立つ知識と技能の習得を図ります。 学生自身が主体的に自己の体験を考察していく授業です。具体的な目的を持って参加すること。自分を磨くことは子どもの笑顔、子どもの傍にいる大人の笑顔につながります。ここから一歩踏み出してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>資料を自ら探し、教材研究に取り組んでください。 演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(川村) 2. 保育実習(保育所)実習の総括(川村) 3. 保育実習(保育所)実習の振り返りとしてグループ討論(川村) 4. 保育実習(保育所)これからの保育所の役割・意義(川村) 5. 保育実習(保育所)これからの保育者の役割・意義(川村) 6. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価①自己評価(安田) 7. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価②フィードバック(安田) 8. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価③自己課題の明確化(安田) 9. 保育実習(保育所)課題の明確化④フィードバック・⑤学びの共有(安田) 10. 保育実習(施設)実習の総括と自己評価①自己評価(畠山) 11. 保育実習(施設)実習の総括と自己評価②フィードバック(畠山) 12. 保育実習(施設)実習の総括と自己評価③自己課題の明確化(畠山) 13. 保育実習(施設)課題の明確化④フィードバック・⑤学びの共有(畠山) <p>・順序は変更する場合があります。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(40%)、提出物(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポート回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(安田)n-yasuda@kwjc.kobe-wu.ac.jp (川村)tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp (畠山)yhatake@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メールの件名に授業名・学科名・氏名を記載し、メール本文に質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育実習指導 I (事後)
担当者	川村 高弘、畠山 由佳子、安田 則子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 授業態度、提出物で評価します。</p> <p>【 幼教3-3】幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: 授業態度、提出物で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育実習指導 I (事前)		
担当者	川村 高弘、畠山 由佳子、安田 則子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①保育実習の意義・目的を理解できるようになる。 ②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができるようになる。 ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解できるようになる。 ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>保育士、保育所長の経験を有する教員が、保育実習に向けての具体的な準備について指導します。保育実習を円滑に進めていくための知識、技能の修得及び保育実習の意義、心構えを学びつつ、実習を円滑に進めていくための知識、技能について修得していきます。また、実習記録、指導計画、実習課題について学びます。保育専門職を目指す人は、いつも「プロ」になる意識を持ってこの授業に参加してください。授業の先には、子どもたちがいることを常に意識し、積極的に授業に臨むことを期待します。 この科目は保育実習Ⅰ(施設)、保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲの単位取得のために修得すべき必修科目です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>保育実習に関わる準備(教材作り等)に取り組んでおいてください。 遅刻や欠席のないように日々自らの体調管理を怠らないでください。 演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・実習生としての心構え(安田・川村) 2. 保育士という仕事(畠山) 3. 保育実習の意義・目的・概要(安田・川村) 4. 実習の内容と課題の明確化(安田・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・実習の内容・課題 5. 保育園生活の実際(保育園参観)(安田・川村) 6. 実習に際しての留意事項(安田・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権と最善の利益の考慮 ・プライバシーの保護と守秘義務 7. 児童養護施設の実習(事前指導)(畠山) 8. 保育内容の展開(安田・川村) <ul style="list-style-type: none"> ・一日の保育の流れ・保育の展開例 ・保育の内容構成 ・保育の内容と子どもの活動 9. 実習における計画と実践(安田・川村) 10. 実習における観察、記録及び評価(安田・川村) 11. 保育方法と形態の理解(安田・川村) 12. 施設実習の実際(畠山) 13. 施設実習の留意点(畠山) <ul style="list-style-type: none"> ・順序は変更する場合があります。 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(40%)、提出物(40%)、模擬保育(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポート回収後、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(安田)n-yasuda@kwjc.kobe-wu.ac.jp (川村)tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp (畠山)yhatake@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メールの件名に授業名・学科名・氏名を記載し、メール本文に質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育実習指導 I (事前)
担当者	川村 高弘、畠山 由佳子、安田 則子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>【 幼教 1-1 】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法：授業態度、提出物、模擬保育で評価します。</p> <p>【 幼教 2-1 】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法：授業態度、提出物、模擬保育で評価します。</p> <p>[テキスト (ISBN)]</p> <p>『 学びにつける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園 』 著者名：久富陽子編著 出版社：萌文書林 (978-4-89347-199-4)</p> <p>[参考文献 (ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育実習指導Ⅱ		
担当者	安田 則子、川村 高弘		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			

[到達目標]

- ① 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解できるようになる。
- ② 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得できるようになる。
- ③ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解できるようになる。
- ④ 保育士の専門性と職業倫理について理解できるようになる。
- ⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にするようになる。

[授業概要]

保育士、保育所長の経験を有する教員が、保育実習に向けての具体的な準備について指導します。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にしていきます。また、保育者としての役割や職務内容について理解を深めていきます。さらに保育技術や養護技術といった知識や技術を高めていきます。保育専門職を目指す人は、子どもやその保護者の支援に関するプロフェッショナルになるという使命感を持ってこの授業に参加してください。授業の先には、子どもやその保護者がいることを常に意識し、積極的に授業に臨んでください。この科目は保育実習Ⅱの単位取得のために修得すべき必修科目です。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

保育実習に関わる準備(教材作り等)に取り組んでおいてください。遅刻や欠席のないように日々自らの体調管理を怠らないでください。
演習1単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。

[授業計画]

1. オリエンテーション(安田・川村)
2. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価(安田・川村)
・自己評価
3. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価(安田・川村)
・フィードバック、自己課題の明確化
4. 保育園生活の実際(保育園参観)(安田・川村)
5. 保育実習(保育所)実習の総括と自己評価(安田・川村)
・学びの共有
6. 保育実習における総合的な学び(安田・川村)
・子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
・子どもの保育と保護者支援
7. 保育の実践力の育成(安田・川村)
・子ども(利用者)の状況に応じた適切な関わり
・保育の知識・技術を活かした保育実践
8. 計画と観察、記録、自己評価(安田・川村)
・保育の全体的計画に基づく具体的な計画と実践
・保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
9. 実習における計画と実践(安田・川村)
10. 実習における観察、記録及び評価(安田・川村)
11. 保育方法と形態の理解(安田・川村)
・指導案作成
12. 保育方法と形態の実践(安田・川村)
・模擬保育
13. 実習の心得確認、保育所保育の今日的課題の理解・留意点、保育士の専門性と職業倫理(安田・川村)
・順序は変更する場合があります。

[成績評価方法]

授業態度(40%)、提出物(40%)、模擬保育(20%)で評価します。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

レポート回収後、解説を行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

(安田)n-yasuda@kwjc.kobe-wu.ac.jp
(川村)tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp まで。
質問等がある場合は、メールの件名に授業名・学科名・氏名を記載し、メール本文に質問事項等を記入してください。

授業科目名 (副題)	保育実習指導Ⅱ
担当者	安田 則子、川村 高弘
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 授業態度、提出物、模擬保育で評価します。</p> <p>【 幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 授業態度、提出物、模擬保育で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『学びつづける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 著者名: 久富陽子編著 出版社: 萌文書林 (978-4-89347-199-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育実習指導Ⅲ		
担当者	畠山 由佳子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標] 保育所以外の児童福祉施設への就職を希望する学生を対象とし、即戦力となる現場での実践力と施設養護の最新の知識を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要] 児童福祉現場においてソーシャルワーク経験のある教員が児童福祉施設について現場の事例を用いながら指導します。 保育実習Ⅰ(施設)で学んだことを応用できるような現場に通じる実践力を養うために、個別・グループでのワークを通じた密な指導を行います。 受講生は施設保育士を目指し、保育実習Ⅲを履修する予定の人のみとなります。必ず事前に担当教員と面談をしたうえで履修してください。また、便覧の「保育士養成課程について」をよく読んでおいてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分の実習先について事前に調べておき知識を付けておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1. 保育実習Ⅲによる総合的な学び 1) 子どもの最善の利益を考慮した養護の具体的理解 2) 子どもの養護と保護者支援 2. 施設現場での実践力の育成 1) かかわりが難しい子どもへの適切なかかわり 2) 施設現場で起こる場面での適切なかかわり 3. 個別支援計画の立て方 4. 子どもの家庭への支援と対応 5. 多様な専門職との連携 6. 地域社会との連携 7. 利用者のニーズの把握① アセスメントの方法と理解 8. 利用者のニーズの理解② 支援計画立案と実施 9. 事例① 子どもとの基本的な関わり 10. 事例② 関わりの難しい子どもの事例 11. 事例③ 子どもの発達に合わせた関わり 12. 児童福祉施設への理解 13. 実習のねらいと実習計画立案</p> <p>[成績評価方法] 受講態度・授業参加度(30%)、提出課題(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 提出物に評価とコメントをつけて返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] yhatake@kwjc.kobe-wu.ac.jp(パソコンからのメールが受信できるように設定を確認してからメール送付してください) 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入してください</p>			

授業科目名 (副題)	保育実習指導Ⅲ
担当者	畠山 由佳子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 提出課題</p> <p>【幼教2-3】保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。 成績評価方法: 受講態度・授業参加度、提出課題</p> <p>【幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 受講態度・授業参加度</p> <p>【幼教3-2】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 提出課題</p> <p>【幼教3-3】幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: 受講態度・授業参加度</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育者のキャリア形成論		
担当者	大西 眞弓、山内 有香子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①社会に参画するとはどういうことなのかを把握し、子どもや保護者、同僚とより良い人間関係を築いていかなければならない保育者としてのキャリアデザインを描くことができる。</p> <p>②コミュニケーション能力や豊かな表現力をもち合わせた保育者になるための基礎的知識・技術を修得することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①教員経験のある者が、その経験を活かして、教育・保育の現場の実際を伝え、子どもと関わる仕事の魅力について指導します。</p> <p>②ファイナンシャルプランナーや園の経営者等の幅広い実務家から、様々な就労モデルと働き方について保育の視点から概観し、ワーク・ライフ・バランスや職業人としての労務知識について学びます。</p> <p>③幼稚園、保育園の現場で働いている先輩(卒業生)が、ゲストスピーカーとして、保育者として働く意義や魅力について分かりやすく講義します。</p> <p>④保育の現場への就職を希望する人は必須となることが学べる授業です。講義を通して保育の視点からよりよい社会人を目指すことや自分なりの保育者像を具体的に描くことができるように指導します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>・外部講師を招いて話を聞く授業では、その回のテーマについて調べ、質問事項を考えておいてください。</p> <p>・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・保育者を目指すとは(大西) 2. 社会が求める保育者像(山内) 3. 保育者としてのキャリア形成とは(山内) 4. 保育者を目指して①保育者の就業状況(大西) 5. 保育者を目指して②保育者の資質(大西) 6. 女性のための労務知識(外部講師・大西) 7. 保育者のための労務知識(外部講師・山内) 8. 最新の保育事情を知る①幼稚園教諭(外部講師・大西) 9. 最新の保育事情を知る②保育士(外部講師・山内) 10. 保育者を目指して③文章表現(山内) 11. 保育者への道を聞く(大西) 12. 保育の視点から考えるよりよい社会人としてのコミュニケーション・保育の視点から考えるよりよい社会人としての自己表現力(山内) 13. 保育者としてのワーク・ライフ・バランス・保育者としてのキャリアデザインを描く(大西) <p>外部講師等の都合で予定が変わることがあります。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>レポート及び課題(60%)、受講態度(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題・レポートに対しては授業内で講評。コメントをつけて返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(大西) yohnishi@kwjc.kobe-wu.ac.jp (山内) yyamauchi@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください</p>			

授業科目名 (副題)	保育者のキャリア形成論
担当者	大西 眞弓、山内 有香子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法:レポート・課題、受講態度</p> <p>【 幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法:レポート・課題、受講態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>各担当者が適宜プリント等を配布。</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育者論		
担当者	川村 高弘		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①保育者の役割と倫理について理解することができる。 ②保育者の制度的な位置付けを理解することができる。 ③保育者の専門性について考察し、理解することができる。 ④保育者の連携・協働について理解することができる。 ⑤保育者の資質向上とキャリア形成について理解することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>幼稚園長の経験を有する教員が、保育者として必要な知識等の指導を行います。 保育者の役割と倫理、制度的な位置付けについて学びます。また、社会から求められている保育ニーズを知り、保育者としての資質や専門性、連携・協働することの重要性について理解し、保育者として望ましいキャリア形成とはどのようなものかについて学修します。 教科書の予習・復習を行うとともに、授業内容を整理するよう心がけてください。また、授業には積極的に参加してください。さらに、日頃から保育に関する問題についての情報をニュースや新聞等で得るようにしておいてください。 この科目は保育実習Ⅰ(保育所)、保育実習Ⅰ(施設)の単位取得のために修得すべき必修科目です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>シラバスの「授業計画」に沿って授業に参加する前に必ずテキストを読み、初めて出会う用語の意味を調べておいてください。また、授業後は講義内容についての復習を行い、自己課題について探求してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の役割と倫理 2. 保育者の制度的位置付け 3. 現在の保育にまつわる問題 4. 保育者の役割を考える 5. 専門家として子どもとかわる 6. 保育者の専門性 7. 保育のプロセスと質の向上 8. 保育者の連携・協働 9. 保護者や家庭、地域との連携 10. 職員間の連携 11. 保育者のライフデザインを考える 12. より良い保育者像を目指して 13. 保育者のキャリア形成における課題 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(10%)、レポート・課題等の提出物(10%)、小テスト(80%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は提出後、添削して返却します。小テストは、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メールの件名に授業名・学科名・氏名を記載し、メール本文に質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育者論
担当者	川村 高弘
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート・課題等の提出物、小テストで評価します。</p> <p>【幼教3-1】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート・課題等の提出物、小テストで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『保育者論ー子どものかたわらにー』 著者名:小川圭子(編) 出版社:みらい (978-4-86015-412-7)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>文部科学省 著者名:フレーベル館 出版社:978-4-577-81422-2 (『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』)</p> <p>フレーベル館 著者名:978-4-577-81424-6</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育内容総論		
担当者	川村 高弘		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①保育所保育指針や幼稚園教育要領等における「保育目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解することができる。</p> <p>②保育所保育指針や幼稚園教育要領等の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解することができる。</p> <p>③子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景や保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解することができる。</p> <p>④保育の多様な展開</p> <p>[授業概要]</p> <p>幼稚園長の経験を有する教員が、保育内容の総合的な指導を行います。</p> <p>保育内容の理解を深め、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている「保育目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連について学び、保育内容の理解を深めていきます。</p> <p>子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景や保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげながら学修していきます。</p> <p>教科書の予習・復習を行うとともに、授業内容を整理するよう心がけてください。また、授業には実際に保育に取り組もうとする気持ちで積極的に参加してください。さらに、日頃から保育に関する問題についての情報をニュースや新聞等で得るようにしておいてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>シラバスの「授業計画」に沿って授業に参加する前に必ずテキストを読み、初めて出会う用語の意味を調べてください。また、授業後は講義内容についての復習を行い、自己課題について探求してください。</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本及び保育内容の理解 2. 保育の全体構造と保育内容 3. 保育内容の歴史の変遷とその社会的背景 4. 子どもの発達や特性と保育内容 5. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 6. 個と集団の発達と保育内容 7. 保育における観察と記録 8. 養護と教育が一体的に展開する保育 9. 環境を通して行う保育 10. 生活や遊びによる総合的な保育 11. 生活や発達の連続性に考慮した保育 12. 家庭・地域・小学校との連携をふまえた保育 13. 保育内容における課題 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(10%)、レポート・課題等の提出物(20%)、小テスト(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は提出後、添削して返却します。小テストは、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p> <p>質問等がある場合は、メールの件名に授業名・学科名・氏名を記載し、メール本文に質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育内容総論
担当者	川村 高弘
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート・課題等の提出物、小テストで評価します。</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート・課題等の提出物、小テストで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論』 著者名: 開仁志(編) 出版社: 保育出版社 (978-4-905493-19-8)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>文部科学省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81422-2 (『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』)</p> <p>フレーベル館 著者名: 978-4-577-81424-6</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育内容の指導法(環境)		
担当者	山内 有香子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①領域「環境」のねらいや内容を理解することができる。 ②幼児の発達や学びの過程を理解し、保育を構成し実践していく力を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①学校現場における教員経験のある者が、その経験を生かして、環境における現代的な課題や望ましい環境について指導します。 ②本授業では「幼児と環境」で得た知識や感性を土台として、幼児の発達や学びの過程を理解し具体的な指導場面を想定した保育を構成し実践する力を身に付けていきます。領域「環境」のねらい及び内容を理解した上で、事例や実際の活動を通して、保育構成と実践に関する基礎・基本、評価の在り方、小学校との接続を視野に入れた保育内容の構成について学びます。 ③「幼児と環境」で学んだことを生かしながら、積極的な態度で授業に臨んでください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>事前にテキストの指定箇所を読んで受講してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育の基本と領域「環境」(幼小の接続を含む) 2. 領域「環境」のねらいと内容、資質・能力について 3. 自然事象と領域「環境」 4. 社会生活と領域「環境」 5. 文化や伝統と領域「環境」 6. 数量や図形と領域「環境」 7. 生活力と領域「環境」 8. 遊びと領域「環境」 9. 保育の実際①計画立案(「情報機器の活用」を含む) 10. 保育の実際②模擬保育(「情報機器の活用」を含む) 11. 保育の実際③振り返り(「情報機器の活用」を含む) 12. 保育の実際④ドキュメンテーションの作成(「情報機器の活用」を含む) 13. 授業全体の振り返りと環境に関わる現代的課題 <p>[成績評価方法]</p> <p>提出課題(50%)小テスト(30%)授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は、講評を加えて返却します。 テストを回収後に、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yyamauchi@kwjic.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育内容の指導法(環境)
担当者	山内 有香子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 小テスト 提出課題</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 提出課題 授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『最新保育講座9 保育内容「環境」』 著者名: 柴崎正行・若月芳浩 出版社: ミネルヴァ書房 (978-4-623-05493-0)</p> <p>文部科学省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81477-5 C3037 (『保育所保育指針解説』)</p> <p>フレーベル館 著者名: 978-4-577-81448-2 出版社: 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』(内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p> <p>978-4-577-81449-9</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育内容の指導法(健康)		
担当者	山内 有香子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>乳幼児期における子どもの心身の健康に関わる領域や知識について学ぶとともに、具体的な楽しい遊びを探求し、模擬保育を通して保育者としての実践力を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①学校現場における教員経験がある者が、その経験を生かして、子どもの発達を踏まえた活動や、リスクマネジメントなどの現代的課題について指導します。</p> <p>②幼稚園教育要領および保育所保育指針等における、心身の健康に関する領域「健康」に示された観点から、乳幼児期の健康教育の基本的な理論を学びます。また、自発的な活動としての遊びを自ら楽しみ保育実践に生かす活動を取り入れて、保育者としての実践力につながる力を身に付けていきます。</p> <p>③日頃から、子どもの生活する姿に関心を持ち、その活動を観察研究する心構えを備えるようにしてください。また、積極的な態度で授業に臨み、自他の健康・安全に心がけてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>事前にテキストの指定箇所を読んでおいてください。授業後は、ノートをまとめて振り返りをしておいてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.領域「健康」のねらいと内容 2.子どもの発達と領域「健康」 3.健康をとらえる視点(1)生活リズム 4.健康をとらえる視点(2)幼児理解 5.健康をとらえる視点(3)生活習慣 6.健康をとらえる視点(4)危機管理 7.発達に応じた運動遊び(情報機器・教材の活用を含む) 8.用具を用いた運動遊び(情報機器・教材の活用を含む) 9.食育とアレルギー 10.安全指導 11.保育活動の実践 (1)模擬保育準備・指導案作成 12.保育活動の実践 (2)模擬保育の実践と記録 13.«健康な心と体»における現代的課題 <p>[成績評価方法]</p> <p>提出課題(50%)小テスト(30%)授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は、後日返却し講評します。 小テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yyamauchi@kwjic.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育内容の指導法(健康)
担当者	山内 有香子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 小テスト 提出課題</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 提出課題 授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『事例で学ぶ保育内容「領域 健康」』 著者名: 無藤隆・倉持清美 出版社: 萌文書林 (978-4-89347-256-4) 文部科学省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81477-5 C3037 (『保育所保育指針解説』) フレーベル館 著者名: 978-4-577-81448-2 出版社: 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』(内閣府・ 文部科学省・厚生労働省) 978-4-577-81449-9</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育内容の指導法(言葉)		
担当者	桐原 美恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>① 子どもが言葉を獲得する過程や、一人一人の発達に応じた適切な援助を理解できるようになる。 ② 子どもが豊かな言葉を育むために、保育者の役割を理解できるようになる。 ③ 言葉遊びなどの実践を通して、周りの人とのコミュニケーションがとれるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>① 幼稚園現場での教員経験のある者が、その経験を活かして、幼児の遊びや生活について指導します。 ② 言葉の発達の道筋を理解し、乳幼児期の環境や保育者の関わり、援助について事例を通して学びます。 ③ 情報機器や教材を活用し、自分自身の言葉の振り返りや実践を通して言葉に対する感覚を磨いていきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>・『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』の領域「言葉」についての内容を読み、発達の理解に努めてください。 ・多くの絵本等に親しみ、自らの言葉を豊かにしていく努力してください。 ・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.オリエンテーション、人間と言葉について 2.幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」のねらいと内容 3.子どもの言葉の発達①・言葉の芽生えと様々な表現 4.子どもの言葉の発達②・言葉の発達をとらえる視点 5.子どもの言葉の発達③・言葉が育つ子どもの環境 6.子どもの言葉の発達④・話し言葉と環境・読み・書き言葉と環境 7.集団生活の中での言葉の育ち・情報機器による言葉の響き、リズムと言葉の感覚 ・言葉が気になる子ども 8.保育者の指導・支援①・模擬保育:保育指導案の作成、言葉遊びの実践 9.保育者の指導・支援②・模擬保育:手作り教材の活用 10.保育者の指導・支援③・発達に応じた様々な情報機器の活用と実践 11.保育者の指導・支援④・紙コップ人形を使ってお話づくりの実践 12.子どもと絵本(学外特別講師・桐原) 13.現代社会と言葉をめぐる問題 ・メディアとことば(情報機器によるバーチャルな仮想の世界と子どもの生活) ・子どもの言葉の発達についての理解度確認テスト・解説</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>小テスト(50%)、作品(20%)、模擬保育(20%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>・レポートや提出した作品は後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(桐原)mkirihara@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育内容の指導法(言葉)
担当者	桐原 美恵子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 小テスト、授業態度</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 作品、模擬保育</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』 著者名: 駒井美智子編 出版社: 株式会社みらい (978-4-86015-422-6) 文部科学省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81447-5 (『保育所保育指針解説』)</p> <p>フレーベル館 著者名: 978-4-577-81448-2 出版社: 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』(内閣府 文部科学省 厚生労働省) 978-4-577-81449-9</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育内容の指導法(人間関係)		
担当者	大西 眞弓		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①乳幼児が人とかかわる力を身に付けていく過程や、発達の道筋を捉えるなど「人とかかわる力の基礎」を理解できる。</p> <p>②幼稚園教育要領等に示す領域「人間関係」のねらい・内容・内容の取扱いについて理解できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①幼稚園現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、乳幼児が身近な環境を通して、人との関わりを広げていく過程を具体的な乳幼児の姿・事例を基に、幼児理解や保育者の援助について理解できるように指導します。</p> <p>②領域「人間関係」のねらい及び内容について学び、乳幼児期における人とのかかわりの重要性を学びます。また講義と併せて情報機器や教材を活用し、実践に生かす活動等各自で教材研究をし模擬保育を行います。</p> <p>③実際の幼稚園現場の参観・参加を通して、子どもの遊びから環境の構成や教師の援助について学びます。その振り返りではグループで意見交換し、学習成果をまとめます。グループディスカッションでの場では相手の話をよく聞き、自分の考えを積極的に述べるように指導します。</p> <p>④ボランティアなどを通して、幼児理解が深まるよう、乳幼児と触れ合う機会を積極的につくることを推奨します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業の振り返りについては、manabaを通じて期日までに提出してください。 ・次の授業の指定箇所は必要に応じて事前にテキスト等を読み、質問事項を考えておいてください。 ・ボランティア活動など可能な限り、乳幼児とかわる体験を積み重ねる努力をしてください。 ・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度) <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.保育の基本と人とのかかわり <ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力」の原点としての人間関係 2.幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における保育の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い 3.幼児教育の基本と人間関係 4.人とのかかわりと遊び(情報機器や教材の活用を含む) 5.遊びの中で育つ人とのかかわり(情報機器や教材の活用を含む) 6.幼稚園児と交流(参観・参加保育) 7.参観・参加保育の振り返り 8.人とのかかわりを育てる保育の実践① ・人とのかかわりが育つプロセス 9.人とのかかわりを育てる保育の実践② ・保護者との対応 10.人とのかかわりを育てる保育の実践③ ・グループ活動の実践(指導案作成) 11.人とのかかわりを育てる保育の実践④ ・模擬保育と討議(指導案振り返り) 12.人とのかかわりを育てる保育者の役割 ・人とのかかわりが難しい子どもへの支援 13.領域「人間関係」をめぐる諸問題 幼児期の人とのかかわりのまとめと復習 <p>[成績評価方法]</p> <p>受講態度(20%)、レポート(40%)、小テスト(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは、後日添削して返却します。 理解度確認テスト実施の際は、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yohnishi@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育内容の指導法(人間関係)
担当者	大西 眞弓
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: レポート・小テスト</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 受講態度、レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『最新保育講座8保育内容「人間関係」』 著者名: 森上史朗・小林紀子・渡辺英則編 出版社: ミネルヴァ書房 (978-4-623-05498-5)</p> <p>文部科学省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81447-5 (『保育所保育指針解説』)</p> <p>フレーベル館 著者名: 978-4-577-81448-2 出版社: 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p> <p>978-4-577-81449-9</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育内容の指導法(表現Ⅰ)		
担当者	小松原 祥子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①幼児の音楽的発達と音楽遊びの支援の在り方を理解できるようになる、 ②リトミック等創造的表現や簡易伴奏によって、音楽遊びや歌唱支援のための実践力を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>幼児の音楽的発達と幼稚園教育要領の理解をした上で、歌・器楽・リトミック・簡易伴奏法による支援方法、オルフの音楽教育・幼保小接続・創造的音楽学習・ICTの活用法について実践によって学び、音楽遊びの指導計画の作成と模擬保育を行う。 初回授業から教科書を持参してください。発表に向けて十分な準備練習をするようにしてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>発表の準備・練習を十分に行ってください。 各回の演習についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 乳幼児の音楽的発達と生活と遊び 手作り楽器の製作 2.幼稚園教育要領 領域「表現」のねらいと内容の留意点 手作り楽器の紹介・合奏 3.わらべうた、唱歌、童謡と支援の在り方 指揮法 反復記号・省略記号 4.乳幼児に合った教育楽器の奏法 オルフの音楽教育 5.幼児教育と小学校教育とのつながり 創造的音楽学習 6.試験と中間まとめ リトミックによる音楽教育①即時反応・基礎リズム 7.リトミックによる音楽教育②音の高低・強弱・遅速、補足リズム 8.リトミックによる音楽教育③リズムパターン・フレーズ・ソルフェージュ 9.歌唱支援の方法 3コードによる伴奏法① ハ長調・ヘ長調 10.歌唱支援の方法 3コードによる伴奏法② ト長調 近親調 11.音楽遊びの指導計画と評価 12.音楽遊びの模擬保育発表と振り返り(低年齢児)ICTの活用 13.音楽遊びの模擬保育発表と振り返り(年長児)ICTの活用 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業内試験(30%)、授業への取り組みや授業内での発表・模擬保育(40%)、提出物・指導案(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業の中で講評・解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>skomatsubara@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育内容の指導法(表現Ⅰ)
担当者	小松原 祥子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業内試験、提出物、指導案</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 授業への取り組みや授業内での発表・模擬保育</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ—』 著者名: 今泉明美・有村さやか(編) 出版社: 萌文書林 (978-4-89347-246-5)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4577814246 (3つのコードで楽しく弾ける♪ピアノ伴奏曲集)</p> <p>ドレミ楽譜出版社 著者名: 978-4-285-14461-1</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育内容の指導法(表現Ⅱ)		
担当者	辻田 美和		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	造形表現作品制作に取り組みます		
<p>[到達目標]</p> <p>①領域「表現」の表現のねらい及び内容、子どもの発達と造形表現活動の特性について理解できる。 ②いろいろな表現方法や技法、画材に触れ、教材や情報機器の活用方法を理解し、幼児の表現活動に必要な基礎知識と技能を身に付けることができる。 ③指導案の構成を理解し、基礎的な指導案の作成及び模擬保育の実践を通して、表現活動を構想することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>領域「表現」のねらい、内容について理解を深め、子どもの発達や学びの過程を理解します。様々な教材や、いろいろな表現方法・技法に触れる実践を通して、幼児の造形表現活動の支援に必要な基礎的知識と技能を身に付け、保育指導案の作成と模擬授業に取り組みます。学びの確認、教材研究として作品制作に取り組みます。グループでの対話や、描くこと・作ること(表現)、見ること・感じること(鑑賞)などを通して、造形表現の楽しさを味わい、保育構想の向上に取り組みます。</p> <p>自分の考えを表現する機会として、グループでの意見交換や共有などの活動に取り組みますので、積極的な参加を歓迎します。基本的な画材の理解を深めるために、作品制作に必要な図画鉛筆と水性絵具セットは各自で準備してください。詳しくは授業にて説明します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業内容を振り返り復習し、理解を深め、ワークシートへの活動の記録と授業ファイルの整理に取り組んでください。授業内容の中で興味を持った点を自主的に深めてください。授業内に作品が仕上がらなかった場合は次の回までに完成させておいてください。 各回の講義についての予習・復習に取り組んでください(各回、予習・復習合わせて1時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、表現とは何か 2.幼稚園教育要領における領域「表現」の理解 3.子どもの発達と表現の理解①発達と描画 4.子どもの発達と表現の理解②錯画期～図式期の表現 5.教材の理解と安全指導 6.表現の実践1研究(描く)、情報機器を用いた作品の記録 7.表現の実践1実践(描く)、情報機器を用いた作品の記録 8.表現の実践2研究・実践(作る)、情報機器を用いた作品の記録 9.表現の実践3研究(感じる)、情報機器を用いた作品の記録 10.表現の実践3実践(イメージする)、情報機器を用いた作品の記録 11.表現活動の組み立て方と評価の理解 12.指導案の構成の理解と作成、模擬保育の準備 13.模擬保育の実践と相互評価 振り返り <p>[成績評価方法]</p> <p>保育指導案の作成と模擬保育への取り組み(20%)、作品制作活動と作品(30%)、ワークシートと授業ファイル(40%)の提出物、受講態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>テーマごとのワークシート記述内容を振り返り、制作作品とともに返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>mtsujita@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育内容の指導法(表現Ⅱ)
担当者	辻田 美和
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 保育指導案の作成と模擬保育への取り組み、ワークシートと授業ファイル</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 作品制作活動と作品、ワークシートと授業ファイル</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』 著者名: 樋口一成 出版社: 萌文書林 (978-4-89347-331-0) 文部科学省 (『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(平成29年3月告示)』)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>東山明 監修 著者名: 明治図書 出版社: 978-4-18-031712-7 (『幼児の造形ニューヒット教材集2手づくりおもちゃ・立体造形編』) 明治図書 著者名: 978-4-18-031816-2</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育内容の指導法(表現Ⅲ)		
担当者	矢野 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①自分自身が、生活の中で感じたことや考えたことを身体の動きで表現できるようになる。 ②模擬保育を通して、音楽、遊具、用具などを使った身体表現やリズム遊びのための実践力を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>身体表現の意味、幼児の身体表現の特性について理解を深める。豊かな感性を養い自己表現を楽しむための基本的姿勢を身に付けるとともに、子どもの豊かな身体表現を引き出し育むための動機づけ、援助・指導について教材や情報機器を活用し学ぶ。 この授業では「自らが自己表現を楽しめる」ことが重要となります。発表などの場面では、恥ずかしがらずに意欲を持って取り組んでください。 実技の授業では、スポーツウエアとスポーツシューズを着用してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>季節や身の回りの事象の変化を敏感に捉え、感じたこと気づいたことを積極的に言葉や身体で表現し、共感しあう体験を心がけてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと。(各回、予習・復習合わせて1時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.保育内容「表現」のねらいと内容 2.身体表現の概要(1)表現の意味・身体表現の意味、幼児の身体表現の特性について 3.身体表現の概要(2)発育・発達と身体表現について 4.身体表現のための動きの実践(1)ゲームや鬼ごっこを通してコミュニケーションを深める身体表現 5.身体表現のための動きの実践(2)乗り物や動物など身の回りにあるものを模倣する身体表現 6.身体表現のための動きの実践(3)音楽やリズムを使った身体表現 7.身体表現のための動きの実践(4)絵本を活用し、イメージや感じたことを身体で表現 8.身体表現のための動きの実践(5)自然や生活のなかにある音、形、色などを表現する 9.保育活動の実践(1)模擬保育準備(情報機器及び教材の活用を含む) 10.保育活動の実践(2)指導案作成 11.保育活動の実践(3)模擬保育の実践と記録(情報機器及び教材の活用を含む) 12.保育活動の実践(4)記録を基にした模擬保育の評価と検討 13.子どもの身体表現を引き出し育むための保育者の役割 <p>[成績評価方法]</p> <p>発表(40%)、レポート(20%)、授業態度(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは、添削して後日返却します。発表は終了後、講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>myano@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育内容の指導法(表現Ⅲ)
担当者	矢野 真理
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 発表、レポート</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 発表、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	幼児と環境		
担当者	山内 有香子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①子どもを取り巻く環境や、子どもの発達と環境との関わりを理解することができる。 ②領域「環境」の指導に必要な感性を養い、実践力の基礎となる知識・技能を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①学校現場における教員経験のある者が、その経験を生かして、幼児と環境との関わりについて指導します。 ②本授業は、領域「環境」の指導の基盤となるものです。まず、幼児を取り巻く環境の諸側面から現代的課題を明らかにし、乳幼児からの発達と環境との相互関係の中で保育において育てる資質・能力を理解していきます。次に、具体的な関わりとして自然・社会・数量や図形・文字や標識についての内容を扱います。体験活動として学内外のフィールドワークを実施し、活動の中で複数の内容を一体的に学び、さらに、小学校との接続を視野に入れた環境の構成についての理解もできるようにしていきます。 ③日常的に、社会事象、自然事象、人のかかわりの様子について興味を持ちよく観察して、保育の眼を養う努力をして授業に臨んでください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.幼児を取り巻く環境の諸側面 3.現代社会の幼児を取り巻く環境とその課題 4.乳幼児期の発達と環境 5.環境と幼児理解①自然環境 6.環境と幼児理解②栽培・飼育 7.環境と幼児理解③数量・図形 8.環境と幼児理解④標識・文字 9.環境と幼児理解⑤情報・施設 10.環境と幼児理解⑥文化・伝統 11.フィールドワーク①学内・学外の環境 12.フィールドワーク②発表と評価 13.幼小の連続性と授業全体の振り返り <p>[成績評価方法]</p> <p>提出課題(50%)小テスト(30%)授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は、後日返却し講評します。 小テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yyamauchi@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	幼児と環境
担当者	山内 有香子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-1】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 小テスト 提出課題</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 提出課題 授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『最新保育講座9保育内容「環境」』 著者名: 柴崎正行・若月芳浩 出版社: ミネルヴァ書房 (978-4-623-05493-0) 文部科学省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81477-5 C3037 (『保育所保育指針解説』)</p> <p>フレーベル館 著者名: 978-4-577-81448-2 出版社: 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 (内閣府・文部科学省・厚生労働省) 978-4-577-81449-9</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	幼児と健康		
担当者	矢野 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①.子どもの健康と保育の意義について理解している。 ②.子どもの心身の発達について理解している。 ③.健康的な生活を送るための必要条件(生活習慣等)について理解している。 ④.遊びと運動の展開について理解している。 ⑤.事故の対応や安全保育について理解している。</p> <p>[授業概要]</p> <p>乳幼児が生活や遊びの中で積極的に身近な環境と関わることの意義、その重要性、発達に及ぼす影響について理解を深め、環境に関わる力を育てる保育のあり方とその実践的内容について学ぶ。健康な心と体を育てるために安全な生活や活動を考える。また、常に社会に変化に敏感な視点を持ち、子どもの実態と理解を深める。 実技の授業では、スポーツウェアとスポーツシューズを着用してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃から子どもの心身の健康問題について考え、関連書物や新聞記事、ニュース等に目を向けておいてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康に生きる 健康の定義、概念、関係法令 領域「健康」のねらい及び内容 子どもの発育・発達・成長の理解 子どもの身体的発達 子どもの発育・発達・成長の理解 子どもの精神的発達 子どもの発育・発達・成長の理解 子どもの運動機能の発達と運動遊びの理解 運動遊びの実践(1)小型遊具を使った遊び(情報機器及び教材の活用を含む) 運動遊びの実践(2)大型遊具を使った遊び(情報機器及び教材の活用を含む) 模擬保育(1)実践計画 運動遊びの指導案作成 模擬保育(2)実践(情報機器及び教材の活用を含む) 模擬保育(3)課題と検討 子どもの健康と生活習慣の理解 食事・睡眠 子どもの健康と生活習慣の理解 排泄・清潔・衣服の着脱 子どもの事故や病気等の対応、安全保育と危機管理 領域「健康」に関する理解度確認テスト・解説 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(30%)、提出物(10%)、発表(30%)、理解度確認テスト(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は、後日添削して返却します。理解度確認テストは回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>myano@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	幼児と健康
担当者	矢野 真理
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 授業態度、提出物</p> <p>【幼教2-2】幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表、理解度確認テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康 第2版』 著者名: 勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行 編 出版社: 株式会社みらい (978-4-86015-471-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	幼児と言葉		
担当者	桐原 美恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①子どもたちの言葉を豊かに育むための援助や関わり方を理解できる。 ②人間としての成長や文化の発展について考えることができる。 ③集団の中で、周りの人とコミュニケーションがとれるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①幼稚園現場での教員経験のある者が、その経験を活かして、幼児の言葉を豊かに育んでいけるよう指導します。 ②学習後には必要な知識や方法を身に付けられるように、「アクティビティ」や「演習課題」に取り組み、考えを深めていけるようにします。 ③幼児の発達や育ちを踏まえた保育者の援助について理解できるよう、具体的な事例を通して指導します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの絵本や紙芝居に親しんでください。 ・日常の中でも様々な場で子どもの言葉に関心をもったり、言葉遊びを楽しんだりしてください。 ・『幼稚園教育要領解説』の領域「言葉」についての理解を深めてください。 ・各回の講義についての予習・復習を行ってください。(各回予習・復習合わせて1時間程度) <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、人間と言葉 2.乳幼児期の言葉の獲得 3.言葉の豊かさ、言葉遊び 4.児童文化財① 児童文化財と子どもの育ち 5.児童文化財② 紙芝居 6.児童文化財③ 絵本とは何か 7.児童文化財④ 絵本と子ども 8.領域「言葉」とは、子どもの言葉と発達 9.前言語期のコミュニケーションと保育 10.保育の展開の実践、情報機器の活用(模擬保育) 11.話し言葉の機能と発達、書き言葉の発達と保育 12.言葉に関する諸問題、言葉を育む保育の構想 13.現代社会と言葉、領域「言葉」と小学校教育との接続 確認テストと解説 <p>[成績評価方法]</p> <p>小テスト(50%)、レポート・提出物(20%)、模擬保育(20%)、授業態度(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートや提出物は後日添削して返却します。 <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(桐原)mkirihara@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	幼児と言葉
担当者	桐原 美恵子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 小テスト</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: レポート、提出物</p> <p>【幼教2-2】幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。 成績評価方法: 模擬保育、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] 保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」 著者名: 馬見塚昭久、小倉直子(編著) 出版社: ミネルヴァ書房 (978-4-623-09251-2)</p> <p>[参考文献(ISBN)] 厚生労働省編 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81448-2 (『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』) フレーベル館 著者名: 978-4-577-81449-9</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	幼児と人間関係		
担当者	大西 眞弓		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①領域「人間関係」の内容を理解できるようになる。 ②幼児の人間関係の発達に関する基礎理論がわかるようになる。 ③事例や映像を通して、乳児期から幼児期の発達を踏まえた人との関わりの道筋が理解できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①幼稚園現場での経験を活かして、保育者としての意識を高めていけるように指導します。 ②領域「人間関係」に関する基礎理論を踏まえ、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解できるように指導します。 ③事例や映像を通して理論を具体的にイメージしながら学び、人間関係の発達を促す環境の構成や保育者の援助のあり方等、幼児教育に保障すべき教育内容に関する知識を身に付けることができますようにします。 ④実習の経験から学んだ事例を通して、グループで協議したり、学んだことをまとめ・発表したりする中で、自分の考えを伝えたり、相手の意見を組み入れたりしながら自身の人間関係が広がっていくプロセスを体験します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートをしっかり取り、復習をして次の授業に臨むようにしてください。 ・実習で学んだ幼児の姿や保育者の援助について、講義課題(特に指導計画2.4.5.10の事例)に添った実践事例を提出してください。 ・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度) <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.現代社会と幼児を取り巻く人間関係 ー関係発達論的視点とはー 2.乳幼児期の愛着、基本的信頼感 3.3歳児未満児の遊びや生活の中で見られる人間関係 4.乳幼児期の自立心の育ち ー「イヤ」「ジブンデ」から始まる自立への過程ー 5.自己主張と自己抑制の発達 6.子どもの遊びや生活をどのように捉えるか ー事例・分析・発表を通してー 7.個と集団の関係 8.幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち 9.幼児期の協同性を育むためには 10.人とのかかわりが難しい子どもへのかかわり 11.保育者と保護者の人間関係 12.幼児期に育みたい資質・能力と人間関係 ー乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりを理解するー 13.領域「人間関係」をめぐる諸課題・まとめ <p>[成績評価方法]</p> <p>小テスト(40%)、レポート(30%)、受講態度(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題・レポートに対しては授業内で講評。コメントを付けて返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(大西) yohnishi@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学生番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	幼児と人間関係
担当者	大西 眞弓
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法:小テスト</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法:レポート、受講態度</p> <p>【幼教2-2】幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。 成績評価方法:レポート、受講態度</p> <p> </p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 人間関係 第2版』 著者名:岩立京子・西坂小百合 出版社:光生館 (978-4-332-70203-0) 文部科学省 著者名:フレーベル館 出版社:978-4-577-81444-5 (『保育所保育指針解説』) フレーベル館 著者名:978-4-577-81448-2 出版社:『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』(内閣府・文部科学省・厚生労働省) 978-4-577-81449-9</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	幼児と表現 I		
担当者	小松原 祥子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標] 保育における音楽表現について多角的な視点から理解し、子どもの主体的・創造的・協同的な表現活動を引き出すために必要な援助を考え、実践することができる。</p> <p>[授業概要] 幼児の表現について多角的な観点から考え、実践し、表現活動における保育者の役割・援助について理解を深めるとともに、子どもの表現を引き出すための力を身に付ける。 初回授業から教科書を持参してください。十分な準備練習をするようにしてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 発表の準備・練習を十分に行ってください。 各回の授業についての予習・復習を行うこと(毎回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1、オリエンテーション 保育現場の音環境とサウンドスケープ 2、様々な調による子どもの歌のコード伴奏付け、弾き歌い、歌唱伴奏 3、イメージと音楽表現 4、様々な表現1(声を取り入れた表現) 5、様々な表現2(素材、楽器を取り入れた表現) 6、様々な表現3(身体的、演劇的要素を取り入れた表現) 7、試験と中間まとめ 8、3歳児のリリックと音楽的援助 9、4歳児のリリックと音楽的援助 10、5歳児のリリックと音楽的援助 11、総合的な表現活動～造形・音楽・身体表現を総合的に取り入れるために～企画と発表準備 12、グループによる表現活動発表と振り返り(声/素材/楽器) 13、グループによる表現活動発表と振り返り(身体/演劇的要素)</p> <p>[成績評価方法] 授業内試験(30%)授業への取り組みや授業内での発表(40%)提出物(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業の中で講評・解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] skomatsubara@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	幼児と表現 I
担当者	小松原 祥子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>【 幼教1-2 】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 提出物</p> <p>【 幼教2-1 】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 授業内試験、授業への取り組みや授業内での発表</p> <p>[テキスト (ISBN)]</p> <p>『 幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ— 』 著者名: 今泉明美・有村さやか (編) 出版社: 萌文書林 (978-4-89347-246-5)</p> <p>[参考文献 (ISBN)]</p> <p>小阪恵一 著者名: 全音楽譜出版社 出版社: 4-11-170383-6</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	幼児と表現Ⅱ		
担当者	辻田 美和		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	教材研究として作品制作に取り組む		
<p>[到達目標]</p> <p>①幼児の造形表現の姿やその発達を理解することができる。 ②幼児の造形表現について専門的な知識・技能を学ぶことを通して、感性を豊かにし、幼児の造形表現活動を支援することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>領域「表現」(造形表現)の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の造形表現活動を支援するための知識・技能を身に付ける。 また、作る(表現する)・みる・感じる・楽しむ(鑑賞する)等の活動を通して、互いの「違い」の面白さに気づき、色や形を介してのコミュニケーションの意義を認識し、自ら創造する喜びを味わいながら、保育者に必要とされる豊かな感性を自己の中に育てる。 自分の考えを表現する機会として、グループでの意見交換や共有に取り組みますので、作品制作とともに積極的な参加を歓迎します。画材についての知識を深めるために水性絵具セットなどを各自で準備してください。詳しくは授業にて説明します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業内容を振り返り復習し、理解を深め、ワークシートへの活動の記録、学びのまとめ、授業ファイルの作成に取り組んでください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.表現の源に出会う 2.幼児の造形表現の発達について 3.幼児の造形表現活動について 4.自然との対話 5.色彩と表現 6.表現と技法①研究 7.表現と技法②実践 8.表現と技法③実践 共同制作 9.素材との対話 10.他者との対話 ドキュメンテーションの制作 11.文化との対話 鑑賞活動の準備と実践 12.小学校との連続性を踏まえた造形表現 13.ICTの活用と総括 ポートフォリオまとめと振り返り <p>[成績評価方法]</p> <p>作品制作活動と作品(30%)、ワークシートと授業ファイル(60%)、受講態度(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>テーマごとのワークシート記述を振り返ります。制作作品は鑑賞活動を通じた対話によるフィードバックに取り組みます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>mtsujita@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本分に学科名・氏名・授業名を記載し、内容を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	幼児と表現Ⅱ
担当者	辻田 美和
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: ワークシートと授業ファイル</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: 作品制作活動と作品</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教育』 著者名: 樋口一成 出版社: 萌文書林 (978-4-89347-331-0) 文部科学省 (『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	幼児理解の理論・方法		
担当者	松岡 恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標] 幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学びおよびその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができるようになる。</p> <p>[授業概要] 発達・就学相談及び保育者へのコンサルテーション経験のある教員が事例を挙げながら指導します。幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものです。本授業では、①幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する、②幼児理解の方法を具体的に理解するという2点について取り上げます。幼児理解は保育の基盤となるものです。多様な視点から、また共感的に理解できるように学んでいってください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 次の授業で取り上げるテーマに沿ってテキストの指定場所を読んで予習をしてください。また、授業後は、復習として指定箇所の解説文を読み、学習したことを自分なりにノートにまとめてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション/発達を理解することの意義 2.子どもの発達と環境 3.子どもの発達と子ども観・保育観 4.社会情緒的発達 5.身体の機能と運動の発達 6.認知の発達 7.言語の発達とコミュニケーション 8.子どもの発達と臨床的問題 9.乳幼児期の学びに関わる理論①愛着 10.乳幼児期の学びに関わる理論②遊び 11.乳幼児期の学びの過程と特性 12.乳幼児の学びを支える保育 13.幼児理解の理論・方法に関する理解度確認テスト・解説 <p>[成績評価方法] レポート(30%)・確認テスト(60%)・授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、内容によって個々に又は授業内に全体へフィードバックします。確認テストは実施後に解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] m-matsuoka@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問などがある場合には、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項などを記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	幼児理解の理論・方法
担当者	松岡 恵
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: レポート、理解度確認テスト</p> <p>【幼教2-1】幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。 成績評価方法: レポート、理解度確認テスト、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>保育の心理学 (シリーズ知のゆりかご) □著者名: 青木紀久代□ 出版社: みらい (9.7848601548e+12)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>内閣府 文部科学省 厚生労働省 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81449-9 (『保育所保育指針解説』) フレーベル館 著者名: 978-4-577-81448-2</p>	